

中核市サミット2020in倉敷

地域を創り、地域に生きる

～中核市が育む日本の力～

パネルディスカッション資料

■開催日：令和2年10月29日（木） ■会場：倉敷アイビースクエア

中核市市長会倉敷市サミット開催事務局
(倉敷市企画財政局企画財政部企画経営室内)

第1パネルディスカッション

災害から「生き抜く」ためのまちづくり

コーディネーター **三村 聡 氏**

岡山大学地域総合研究センター長

コメンテーター **片田 敏孝 氏**

東京大学大学院情報学環 特任教授
日本災害情報学会会長

《趣旨》

近年、全国各地で頻発・激甚化する自然災害により、住民の尊い命や財産を失う等、多くの中核市においても甚大な被害が生じており、被災地では、現在、一日も早い復旧・復興に向けて邁進しているところです。

また、今後も地球温暖化による気候変動に伴う台風や集中豪雨の増加、さらには南海トラフ地震や直下型地震などの発生が危惧されているなか、全国各地で、地域の実情に応じて、将来にわたって活力ある社会を維持していく上での基盤となる防災・減災、国土強靱化に向けた取組が進められています。

加えて、新型コロナウイルス感染症の感染防止を踏まえた防災対策など新たな課題への対応についても進めていかなければなりません。

本パネルディスカッションでは、各中核市でのこうした取組を紹介するとともに、災害から「生き抜く」ための方策等について議論します。

| | |
|------|--------|
| 福島市 | 2 P～ |
| いわき市 | 1 1 P～ |
| 長野市 | 2 4 P～ |
| 呉市 | 3 0 P～ |
| 倉敷市 | 3 5 P～ |

災害から「生き抜く」ためのまちづくり ～福島市～



古・関・裕・而
のまち 福島市

＜中核市サミット2020in倉敷＞

福島市長 木橋 浩

災害の傾向



自然環境・社会環境の変化

～ 気候変動、都市化、高齢化、国際化. . .



災害の大規模化、激烈化、複合化、頻発化

- ・ 東日本大震災
- ・ コロナ禍の災害
- ・ 被災地を襲う災害

(福島市)

東日本大震災、特に原発災害との長い闘い
台風19号等の水害
吾妻山の噴火警戒 など

東日本大震災 ～ 未曾有の巨大複合災害



◆ 人的被害 (2020年3月1日現在)

・ 死者19,729人 (福島市17人) ・ 行方不明者2,559人 ・ 負傷者6,233人 (19人)



小高での津波 (富沢貞嗣さん撮影)



倒壊した福島学院大学宮代キャンパス本館 (福島民友より)



決壊した藤沼湖 (福島県東日本大震災記録写真集より)



福島第一原子力発電所4号機爆発 (航空自衛隊撮影)



コスモ石油タンク炎上時の火柱 (千葉県警察撮影)

原子力災害との闘い



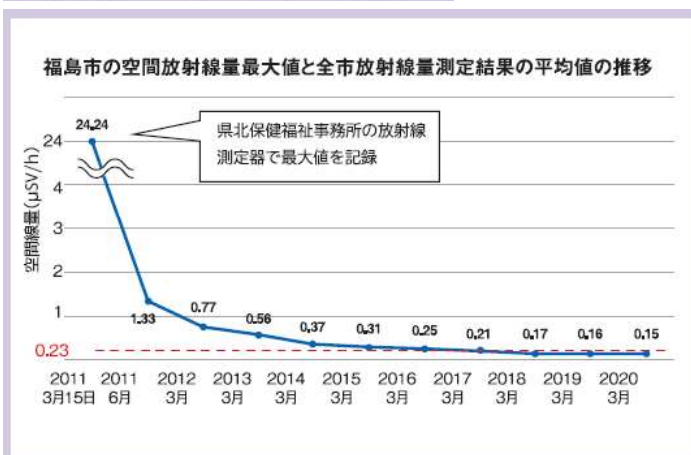
<面的除染>

- ・ 最大 24.24 $\mu\text{Sv}/\text{時}$ (2011.3.15)
- 0.15 $\mu\text{Sv}/\text{時}$ (2020.3)
- ・ 安心して暮らせる環境に

<見えない放射線>

- ・ 初期の情報不足
- ・ 見えない放射線への不安・恐怖
- 市民間の軋轢
- 全国的な風評・偏見差別
- 今も根強く残存

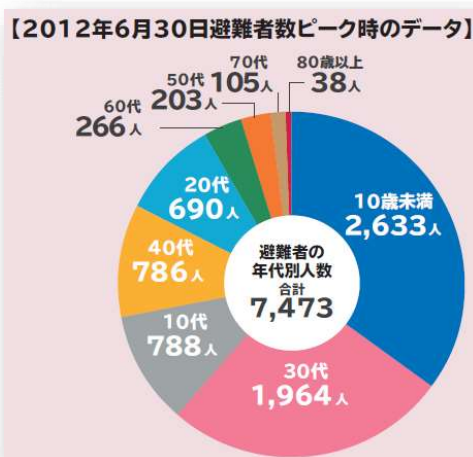
コロナ禍での差別偏見、誹謗中傷と共通



避難者の状況



| | 市内への避難者 | 市外への避難者 |
|-----------------|--------------------------|-------------------------|
| ピーク時 | 12,065人 (2011. 8. 31) | 7,437人 (2012. 6. 30) |
| 2020.3.31 現在 | 6,351人 | 2,182人 |



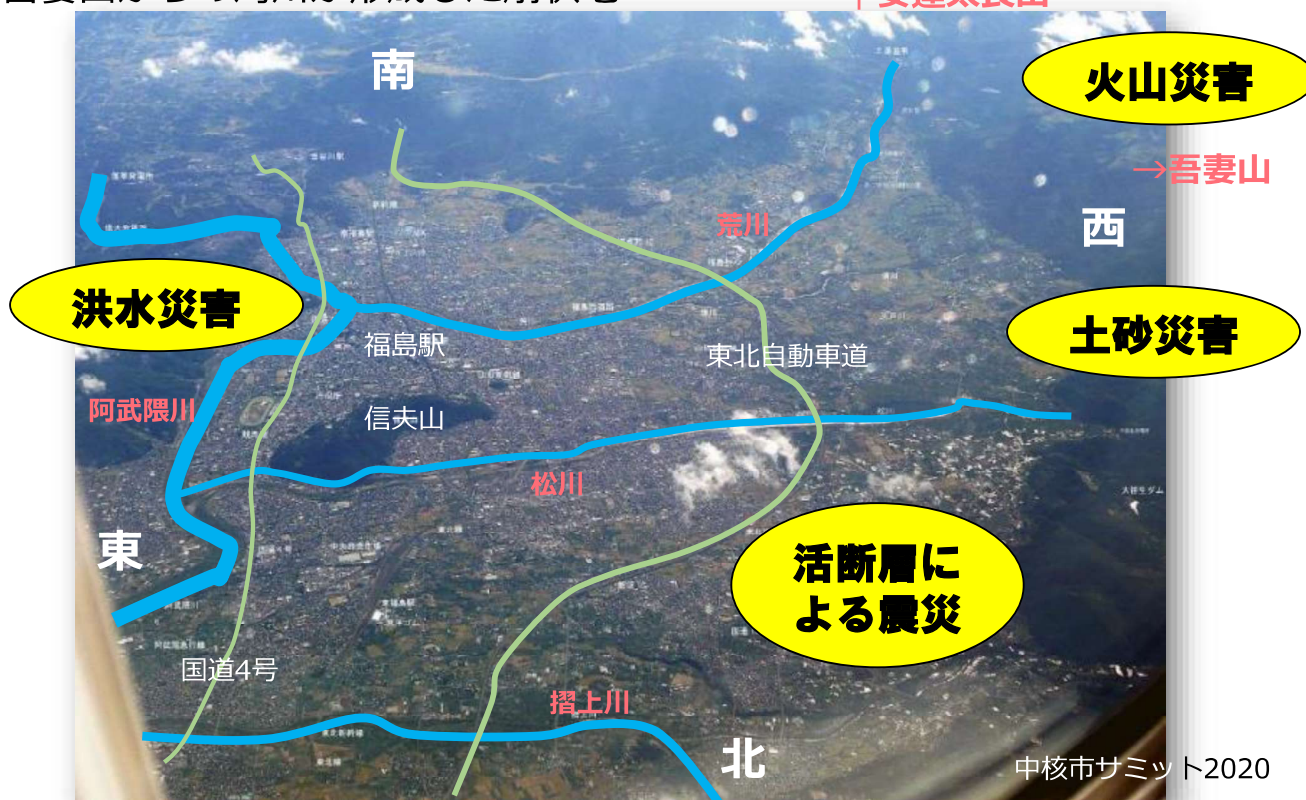
中核市サミット2020

災害との共存 福島市の地域特性



吾妻山からの河川が形成した扇状地

↑ 安達太良山



中核市サミット2020

ハザードマップ



- 洪水ハザードマップ／土砂災害ハザードマップ／火山防災マップ／内水ハザードマップ／ → 全戸配布
- 摺上川ダム下流浸水想定図

ふくしまeマップ

利用規約

- 水害時ハザードマップ
- 洪水ハザードマップ
- 内水ハザードマップ (浸水想定)
- 内水ハザードマップ (浸水実績調査結果)
- 土砂災害ハザードマップ
- 大雨時浸水注意箇所
- 指定緊急避難場所
- 指定避難所

防災

中核市サミット2020

令和元年 台風19号



| | | 台風19号 | (参考) 昭和61年8月豪雨 |
|----------------|------------|--------|-------------------|
| 総雨量 | 松木町 (市内中心) | 252mm | 264mm |
| ※台風19号 39時間 | 茂庭 (北部) | 179mm | 224mm |
| S61.8豪雨 48時間 | 鷲倉 (西部) | 383mm | 381mm |
| 河川の最高水位 | 阿武隈川 | 6.43m | 5.90m |
| | 荒川 | 2.55m | 1.98m |
| | 松川 | 3.63m | 2.52m |
| 家屋等浸水被害 | 床上・床下浸水 | 1,405件 | 2,825件 |

▼阿武隈川の支流 濁川で決壊



中核市サミット2020

台風19号への対応（1）



1.プッシュ型の被災者支援

- ・ 総合相談窓口のワンストップ化
- ・ 浸水地区への相談窓口・手続受付の開設
- ・ 浸水地区での災害ごみの巡回収集
- ・ 浸水地域でのボランティアニーズ把握
- ・ 浸水地域に申請前の損壊状況調査



2.罹災データの即時共有、迅速発行

Access（アクセス）活用

- ・ 入力後、本庁と17支所間で申請データをリアルタイムで共有！
- ・ 申請者の罹災状況をシステム上で確認、災害見舞金等の証明書添付が不要！
- ・ 台風19号後、アクセスを被害状況や災害対応の記録、共有化に活用
- ・ コロナ対応では、10万円給付金の困窮者向け緊急給付の受付に活用

▼アクセスを活用した罹災証明書発行システムの調査結果入力画面



中核市サミット2020

台風19号への対応（2）



3.県内市町村の応援

- ・ 給水車、タンクの貸出 ⇔ 市内でも活用
- ・ 家庭ごみ、災害ごみ、し尿の広域処理の受入れ
- ・ 人的応援派遣（保健師、家屋調査、応急修理関連、被災文化財救援）
- ・ 救急活動
- ・ 放射能測定器の貸出

《災害対策本部の状況》

| 観測所名 | 須賀川 | 阿久津 | 本宮 | 福島 | 二本松 | 松川町 | 八木田 | 清水 | 永井川 | 大森 | 沖高 |
|-------------|------|-------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|
| 河川名 | 阿武隈川 | 阿武隈川 | 阿武隈川 | 阿武隈川 | 阿武隈川 | 水原川 | 荒川 | 松川 | 涌川 | 大森川 | 八反田川 |
| 計画高水位 | 7.99 | 8.68 | 9.29 | 6.56 | 13.18 | 3.30 | 3.40 | 4.42 | 2.40 | 2.20 | 2.40 |
| はん濫危険水位 | 7.70 | 7.90 | 7.90 | 5.40 | 10.40 | | 2.00 | 3.85 | 2.30 | 2.05 | 1.70 |
| 避難判断水位 | 7.10 | 6.80 | 6.30 | 5.10 | 10.10 | | 1.30 | 3.60 | 2.20 | 1.91 | 1.60 |
| はん濫注意水位 | 4.50 | 5.50 | 5.00 | 4.00 | 6.50 | 2.00 | 1.20 | 2.50 | 1.70 | 1.50 | 1.35 |
| 水防団待機水位 | 3.50 | 4.00 | 4.00 | 3.00 | 5.50 | 1.50 | 0.50 | 2.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 23:30 | 8.79 | 9.24 | 7.98 | 6.00 | 9.89 | 2.47 | 2.49 | 3.60 | 4.05 | 2.25 | 2.17 |
| 23:40 | 8.85 | 9.39 | 8.13 | 6.09 | 10.06 | 2.46 | 2.12 | 3.62 | 4.09 | 2.23 | 2.15 |
| 23:50 | 8.89 | 9.51 | 8.28 | 6.15 | 10.20 | 2.46 | 2.53 | 3.63 | 4.13 | 2.27 | 2.15 |
| 10月13日 0:00 | 8.94 | 9.61 | 8.42 | 6.21 | 10.39 | 2.41 | 2.12 | 3.59 | 4.17 | 2.26 | 2.11 |
| 0:10 | 8.98 | 9.71 | 8.65 | 6.25 | 10.55 | 2.41 | 2.12 | 3.57 | 4.21 | 2.18 | 2.11 |
| 0:20 | 9.02 | 9.78 | 8.80 | 6.36 | 10.71 | 2.38 | 2.01 | 3.55 | 4.24 | 2.11 | 2.08 |
| 0:30 | 9.05 | 9.87 | 8.94 | 6.36 | 10.88 | 2.36 | 1.83 | 3.49 | 4.27 | 2.13 | 2.06 |
| 0:40 | 9.07 | 9.93 | 9.06 | 6.42 | 10.98 | 2.37 | 1.99 | 3.45 | 4.28 | 2.02 | 2.02 |
| 0:50 | 9.11 | 9.93 | 9.15 | 6.33 | 11.19 | 2.28 | 1.90 | 3.41 | 4.29 | 2.02 | 2.00 |
| 1:00 | 9.14 | 9.99 | 9.22 | 6.31 | 11.35 | 2.26 | 1.94 | 3.35 | 4.30 | 2.06 | 1.97 |
| 1:10 | 9.16 | 10.00 | 9.33 | 6.32 | 11.46 | 2.27 | 1.80 | 3.30 | 4.28 | 1.98 | 1.92 |
| 1:20 | 9.18 | 10.00 | 9.45 | 6.36 | 11.62 | 2.23 | 1.67 | 3.25 | 4.28 | 1.85 | 1.90 |
| 1:30 | 9.24 | 10.01 | 9.52 | 6.36 | 11.75 | 2.20 | 1.62 | 3.20 | 4.26 | 1.82 | 1.89 |
| 1:40 | 9.30 | 10.00 | 9.61 | 6.39 | 11.85 | 2.14 | 1.50 | 3.13 | 4.25 | 1.81 | 1.86 |
| 1:50 | 9.37 | 10.00 | 9.67 | 6.39 | 11.97 | 2.09 | 1.47 | 3.08 | 4.23 | 1.76 | 1.81 |



◀水位計による河川監視

※10/13 0時頃の状況

- 現在・通常水位計 21か所
- ・ 危機管理型 23か所
 - ・ ライブカメラ 23か所

中核市サミット2020

<台風19号を教訓に> 水害対策パッケージ



1 減災・水防対策の推進

- ①市民全体への正確かつ迅速な情報伝達等
 - ・防災情報配信システムの強化検討
同報系防災行政無線導入検討
(屋外スピーカー設置、福祉施設等への戸別受信機配布等)
 - ・危機管理型水位計等の活用による国、県と連携した各河川の避難判断水位の設定・見直し
 - ・内水ハザードマップの作成
- ②水防体制の強化
 - ・地区防災計画（災害時要援護者の避難誘導含む）策定推進
 - ・要配慮者利用施設の避難確保計画の策定推進
 - ・水防団員の確保
 - ・内水排除作業マニュアルの整備、講習会の実施
- ③水防意識の向上
 - ・防災訓練や講話による「自助」意識付けの推進
 - ・ハザードマップの地区説明会による住民周知

2 土地利用対策の推進

- ①地適正化計画との連携
 - ・居住推奨区域の見直し
- ②土地の適正な維持管理による防災機能の向上
 - ・農用地、森林の整備と適正な維持管理

3 治水対策の推進

- ①河川・下水道の整備促進
 - ・浸水多発地区の対策（祓川、森合ガード等）
- ②国・県管理河川と連携した整備・維持管理
 - ・緊急自然災害防止対策事業を活用した整備
(河川・農業用水路改修、河道掘削)
 - ・維持管理の強化（土砂撤去・樹木伐採等）
- ③既存ストックの改良活用
 - ・雨水排水施設等のネットワーク化、分散化等
 - ・既設ポンプ場改修
- ④樋管等の改修検討
- ⑤水門管理体制の強化

4 流域対策の推進

- ①一時貯留施設の設置
 - ・緊急自然災害防止対策事業を活用した整備
- ②貯留施設と浸透施設の設置検討
 - ・公共施設、民間施設、一般住宅への設置
- ③開発行為等における貯留施設の設置
- ④総合的な雨水対策計画の策定



中核市サミット2020

<台風19号を教訓に>

情報収集伝達体制の強化（1）



1.災害情報ネットワークの構築

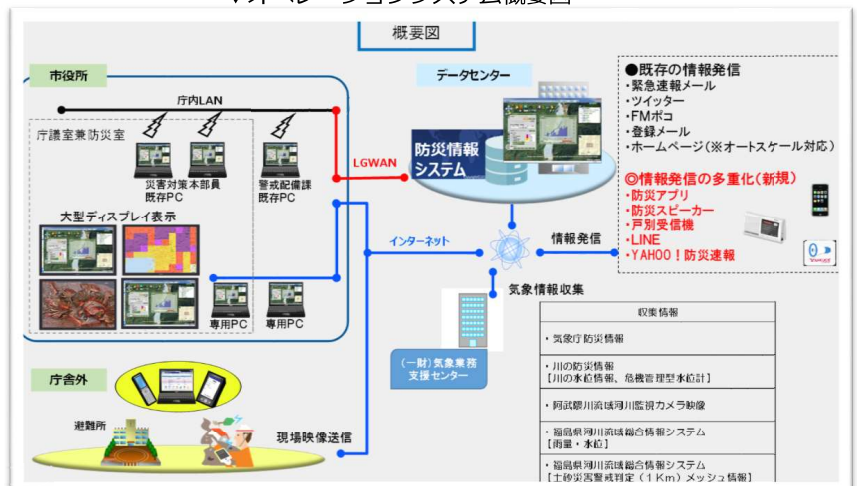
(1)水位情報等の収集・監視強化

- ・19号時～危機管理水位計へのアクセス殺到、監視困難
- ・19号後、水位計、危機管理水位計、監視カメラの増設
→ 避難情報等と連動した**一覽性のあるオペレーションシステム**構築中

(2)情報伝達の多重化

- ①屋外スピーカー
- ②戸別受信機
- ③スマホアプリ
- ④災害メール、SNS、HP
- ⑤コミュニティFM
→ 市役所局開局。
コロナ関連情報の伝達にも活用

▼オペレーションシステム概要図



中核市サミット2020

<台風19号を教訓に>

情報収集伝達体制の強化（2）



2. 情報提供の充実

19号時11本の避難情報発令 → 危機伝達に効果、一方一部混乱

- (1)HPの錯綜防止
- (2)情報発信機器の増設
- (3)避難情報等の内容の定型化
- (4)避難情報の全体像の提供
- (5)内水ハザードマップの作成・全戸配布



3. 市避難ガイド2020版の配布

災害時に取るべき避難行動を平時から家族で共有。
避難所リストと避難行動フローから適切な避難行動を促す。



中核市サミット2020

<台風19号を教訓に>

新たな連携（1）



1. 維持修繕作業の相互実施

→ **県管理施設の代行補修が可能に**

台風19号の際、市が県管理横断地下道の排水実施
～相互協定締結

- 土砂流出や倒木等の啓開作業、道路冠水に対する排水作業を相互に実施し、早期復旧



内堀知事と現地視察



N T T 東日本福島支店

2. 通信復旧に関する協力

情報連絡員を相互派遣し、早期の通信障害復旧！

- 市管理用地の提供、倒木処理、道路除雪の協力
- 通信災害情報の提供、情報連絡員の相互派遣

3. 福島刑務所への避難者受入

大規模災害時において**福島刑務所内に約340名の避難者の受け入れが可能に！**

- 車庫棟、駐車場において避難者受入
- 断水発生時の施設内自家水による飲料水の提供



福島刑務所

中核市サミット2020

<台風19号を教訓に>

新たな連携（2）



4. ホテル旅館への妊産婦等の受入

- 妊娠28週目から産後2か月の妊産婦
- 医療的ケア児
- 介助者及び同居する小学生までの子（兄弟姉妹）



福島市旅館ホテル協同組合（協力13施設）



（一社）福島県ペストコントロール協会

5. 多様な事業者との連携

- ①（一社）福島県ペストコントロール協会
～防疫業務の連携
- ②段ボール会社（福良梱包、ダイナパック）
～段ボールシート、段ボールベッドの提供

6. 町内会と事業者の防災協定

台風19号で被災した町内会と福島トヨタ自動車との防災協定
ショールーム等の一部を一時避難所として開設。

中核市サミット2020

新型コロナ等新たな課題への対応(1)



1. 阿武隈川流域全体での取組

- ①減災対策協議会…「防災・減災」のソフト対策等
- ②流域治水協議会(新)…流域全体の視点からの対策

※上流の遊水地予定地の農産物を福島市の市で販売



国、流域首長とのオンライン会議

2. 分散避難への転換

- (1)非浸水地域等は自宅避難
- (2)避難所の定員縮小と増設
 - ・19か所⇒警戒レベルに応じ38か所に増設
 - 地域の実情に応じ地域の集会所等を一時避難所に活用
 - ・避難所支援職員の増（8人1班体制）
- (3)避難所定員情報の配信
- (4)妊産婦・医療的ケア児等のホテル旅館への避難
- (5)障がい児・者の施設等への避難
- (6)ペット同伴避難所等の検討

中核市サミット2020

新型コロナ等新たな課題への対応(2)



3.新型コロナ対策

(1) 避難所におけるサーマルカメラ等の設置

(2) 新型コロナ対応型訓練の実施

① 市民参加の新型コロナ対応型防災訓練 (5/16)

例年の総合防災訓練を変更し開催
避難所開設、運営の課題を抽出

② 避難所支援職員を対象とした避難所の開設・運営訓練 (7/15)

検温、テント設置など手順の確認
独自の避難所マニュアルの作成



写真：時事通信社



中核市サミット2020

首長として



1. 全体の動きを把握する工夫を！

(1) 本部の情報機能の強化と本部での常駐

- ・ 本部の情報集約機能の強化
～ 首長は情報が集まる場、対応状況を把握できる場に
- ・ 関係機関トップと情報交換

(2) 現地での被災状況全体把握

→ 漏れの回避、優先順位の参考

2. 予測能力の向上を踏まえた決断

(1) 悪化予測の場合の早めの対応

(2) 一定レベルに止まることが予測される場合

- ～ 集まるリスク、移動リスク等との総合判断
- 機械的に対応しない決断も

中核市サミット2020

令和元年東日本台風における いわき市の対応について



十分に準備をする
それでも想定外の事態が次から次に起こる

令和2年10月29日

いわき市長 清水 敏男



1



【 項 目 】

- 1 いわき市の被災状況
- 2 災害対応の課題と
被災者支援の主な取り組み
- 3 経験を明日に活かす

2



1 いわき市の被災状況

令和元年東日本台風の被害



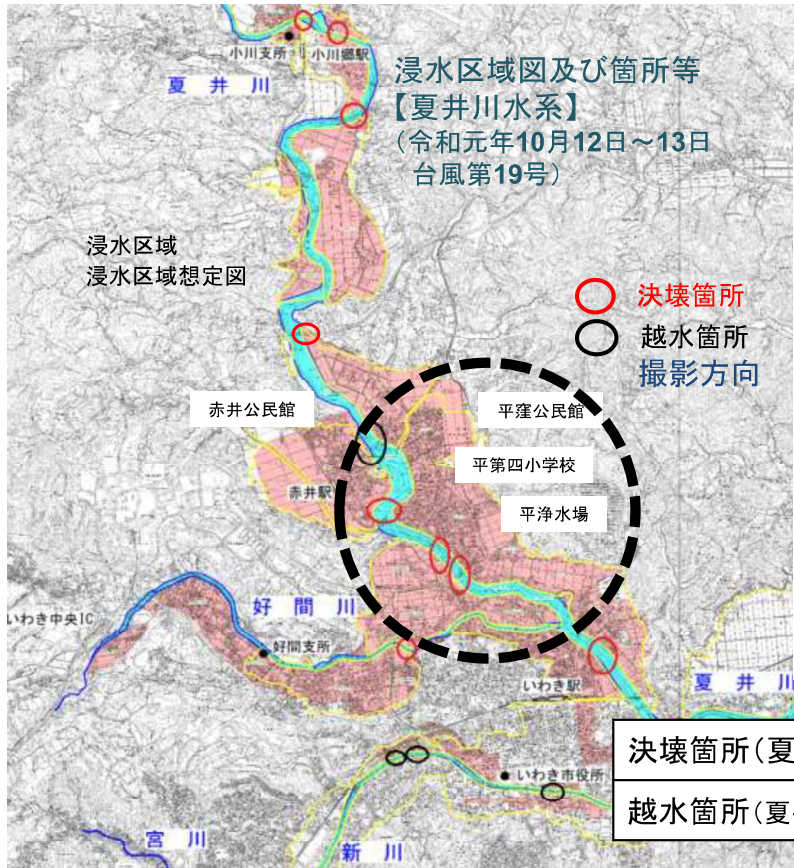
夏井川の決壊によって大きな浸水被害を受けた いわき市平平窪（たいら ひらくぼ）地域



夏井川



■ 主な河川の決壊箇所及び浸水区域図等



| | |
|--------------------|------|
| 決壊箇所(夏井川、好間川、鮫川) | 10箇所 |
| 越水箇所(夏井川、新川、宮川、鮫川) | 7箇所 |

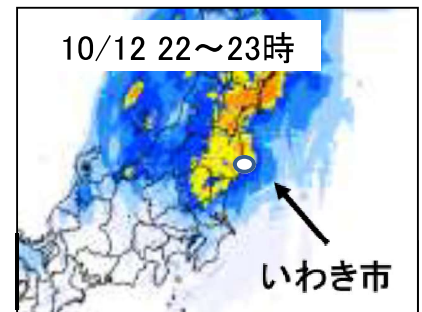
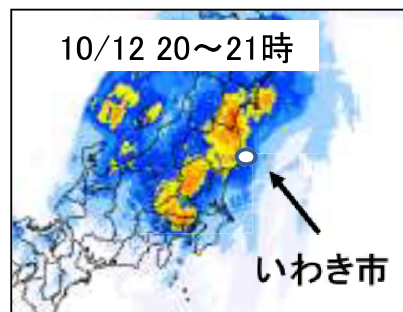
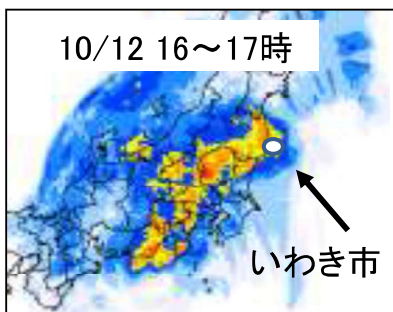


(1) 気象状況

令和元年東日本台風(台風第19号/令和元年10月12日)

■ いわき市において初めて「大雨特別警報」が発表される

【いわき管内に雨雲がかかる様子】



【10月12日 午前0時から13日午前9時までの主な地区の総雨量(mm)】

| 地区名 | 三和 | 田人 | 遠野 | 内郷 | 常磐 | 川前 | 平 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 総雨量 | 448.5 | 298.0 | 296.5 | 270.0 | 243.5 | 242.5 | 206.0 |



(2) 避難の状況

《避難情報の発令状況》 ※発令時刻は、最も早く発令した地域の時刻

市民の尊い命と貴重な財産を守るため、令和元年10月11日に防災気象情報の発信とともに、早め早めの避難の呼びかけを実施し、翌12日10時00分に「いわき市水防本部」を設置。

- 10月12日 10時00分 (警戒レベル3) 避難準備・高齢者等避難開始発令
- 同日 15時20分 (警戒レベル4) 避難勧告発令 [計 4件]
- 同日 19時10分 (警戒レベル4) 避難指示(緊急)発令 [計19件]
⇒いわき市災害対策本部に移行
- 同日 23時20分 (警戒レベル5) 災害発生情報発令 [計 4件]

《最大避難世帯数及び避難者数》 (令和元年10月13日)

- 避難所開設数 60箇所
- 避難世帯数 3, 018世帯 ⇒ 令和2年1月26日
- 避難者数 6, 968人 避難所閉鎖



避難所の様子
(内郷コミュニティセンター)
※令和元年10月23日撮影



(3) 被災の状況 (令和2年9月1日時点)

《災害救助法の適用／激甚災害の指定》

| | | |
|--------|----------------------------------|---------|
| 人的被害 | 死者 (関連死及び事故によりお亡くなりになられた方を含む) | 12名 |
| | 負傷者 (軽傷) | 31名 |
| 被害棟数合計 | 全壊 | 225棟 |
| | 大規模半壊 | 1, 295棟 |
| | 半壊 | 4, 870棟 |
| | 一部損壊 (準半壊) | 291棟 |
| | 一部損壊 (10%未満) | 1, 957棟 |
| | 合計 | 8, 638棟 |



2 災害対応の課題と 被災者支援の主な取り組み

市民の声を聞いて、できることは何でもやる。

- ・ 市民ニーズに即応
- ・ 期限を決めて実施



(1) 災害対策本部の機能強化

災害発生の約1週間前に災害対策本部室／リエゾンスペースなどの整備が完了

- ⇒ 整備が遅れていたら、災害対応機能はさらに混乱していた可能性がある。
- ⇒ 限られた庁舎スペースを有効に整備したことが、災害対応の鍵となった。

【災害対策本部】

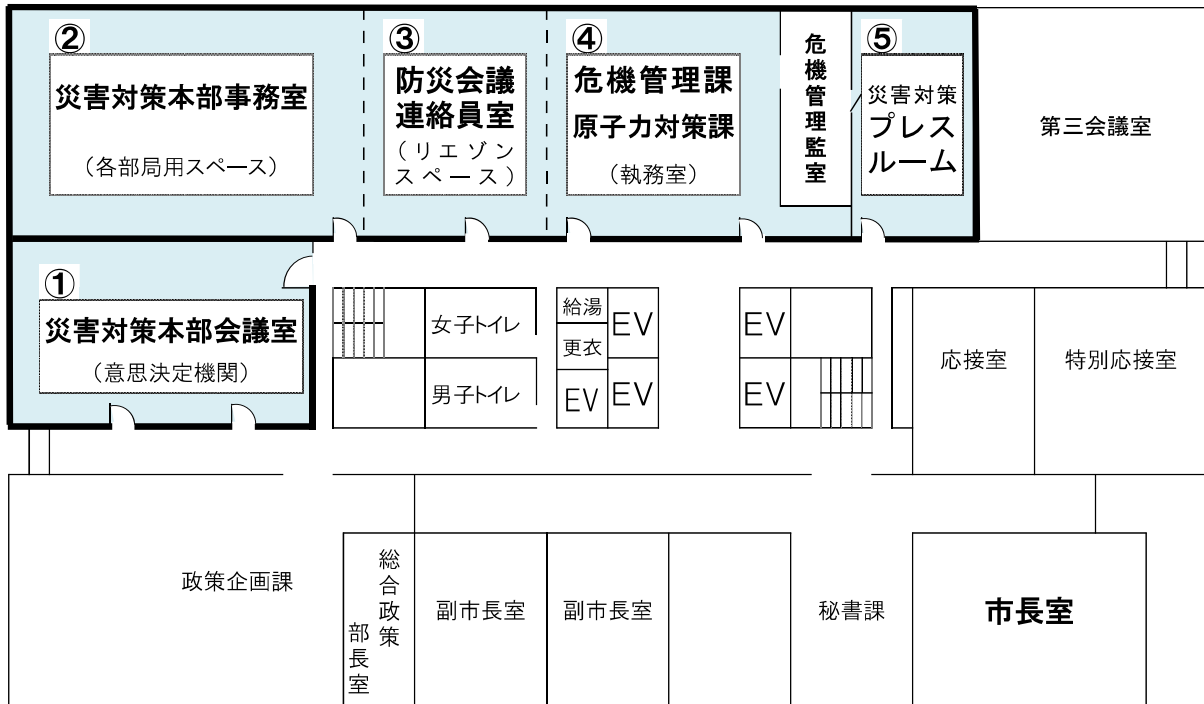
【リエゾンスペース】



※写真は、後日撮影したものです。



災害対策本部レイアウト（本庁舎3階）



※災害時、②（災対本部事務室）＋③（防災会議連絡員室）＋④（危機管理課/原子力対策課）の間仕切りを撤去してオープンスペースとして使用する。

11



(2) インフラ設備の早期復旧（大規模な断水の発生）

平浄水場の浸水被害に伴い、市内約45,400戸で断水が発生したが、令和元年10月27日に復旧作業を完了。

⇒ **インフラ機能の被害想定、そして早期の復旧が重要なポイント**



浸水した平浄水場(床上約60cm)



給水所の様子(水道局)

※ 給水活動の体制

- 最大 55台128人(10月22日(火))
- 延べ給水車486台、延べ人員1,031人
- ・水道局 延べ給水車72台 延べ人員319人(内他部局応援職員150人)
- ・給水車応援 43団体
- 延べ給水車414台、延べ人員712人

12



(3) 災害情報伝達の強化

**東日本大震災の教訓から、
防災情報等を迅速かつ的確に周知するため**

①緊急速報メール（エリアメール） ②市防災メール（登録制）
③市ホームページ ④SNS（フェイスブック・ツイッター）
⑤テレビのデータ放送 ⑥コミュニティFMの緊急放送 ⑦広報車

多様な手段を活用した情報伝達の多重化を実施

【課題】 それでも

伝達内容が「分かりにくい」、「聞こえなかった」との声
⇒ 高齢者等の要配慮者にも効果的な情報伝達が必要。

【改善】 必ず伝えたい

- ① 発信する情報は、文章から箇条書きに改めた
- ② 高齢者等の情報弱者に防災ラジオの無償貸与
- ③ 消防団、消防署から水防信号(サイレン吹鳴)を実施

13



(4) 現地对策事務所の設置

甚大な被害を受けた平窪・赤井地区の被災者支援を目的として、市で初めての現地对策事務所を設置。

- ・ 地域情報の把握や住民への各種情報の提供
- ・ 支援物資等の配布
- ・ リ災証明書等の受付
- ・ カーシェアリング、片付けに使用する軽トラック、高圧洗浄機、床下乾燥用送風機等の貸し出し

| | | |
|-----------|--------|-------------|
| 平窪現地对策事務所 | 平第四小学校 | 10月18日(金)設置 |
| 赤井現地对策事務所 | 赤井公民館 | 10月21日(月)設置 |

【平窪現地对策事務所(平第四小学校の様子)】



14



(5) 災害廃棄物の処理

自衛隊、消防団等の協力により集中的に撤去を実施

【水害ごみの年内撤去強化指針を発表】

約1か月間での撤去完了を目標に設定

⇒ 令和元年11月18日～12月17日の1か月間で
生活圏からの撤去完了



(中平窪第一公園)

15



(6) 買い物支援バス／入浴支援バスの運行

① 買い物支援バス(10月22日～12月31日)

自家用車の水没等により移動手段を失った方を対象に、最寄りの商業施設までの無料送迎バスを運行。(利用者数:延べ1,358名)

② 入浴支援バス(11月13日～2月14日)

給湯設備の破損等により自宅で入浴が困難になった方を対象に、入浴施設までの無料送迎バスを運行。(利用者数:延べ1,567名)



(買い物支援バス)

16



(7) 災害ボランティアセンターの設置

令和元年10月15日

「いわき市災害ボランティアセンター」を設置

(いわき市社会福祉協議会内)

※10月16日～災害ボランティアを募集し、どろ出し等の災害支援に取り組んでいただきました。

・活動者数 **10,185人**、活動件数 **953箇所**

(令和2年2月28日受入れ終了)



17



(8) 被災者への健康調査等を実施

① 被災者健康調査(10月16日～11月1日実施)

被災した市民等を対象に、保健師の自宅訪問による健康調査を実施。要継続支援者(高齢者や障がい者等のうち継続して支援が必要な方)については、各地区保健福祉センターや地域包括支援センター等へ引き継ぎ、継続した支援を行うよう対応しました。

なお、調査の実施にあたっては、10自治体から62人(保健師38人、事務等24人)の派遣職員の応援をいただきました。

| 延べ従事保健師数 | 延べ訪問件数 | 左記のうち在宅件数 | 左記のうち要継続支援者数 |
|----------|--------|-----------|--------------|
| 309 | 5,734 | 2,894 | 56 |

② その他の被災者へのケアの取り組み

- ・メンタルヘルス支援事業(メンタルの不調があると思われる世帯への保健師による戸別訪問)
- ・災害心の健康相談(心の健康相談を希望する人に対する医師や心理士等による相談)
- ・災害心のケアサロン(避難所等において、「災害時の心のケア」や「リラクゼーション法」等の健康教育を実施)

18



(9) 住家床下消毒事業等を実施

浸水被害を受けた住家の床下について、衛生面の不安を解消するため、令和元年11月11日から令和2年3月31日まで4,373件の住家の床下の消毒作業を実施しました。

【実施方法】

住家の床下収納庫や基礎の通風口等から、一定量の消毒薬を散布



19



(10) 自衛隊による災害派遣活動

| 支援の内容 | 延べ活動人数 | 支援数 |
|----------|---------|----------|
| 給水支援 | 約1,570名 | 約2,330t |
| 給食支援 | 約60名 | 約2,000食 |
| 入浴支援 | 約1,480名 | 約14,700名 |
| 災害廃棄物撤去 | 約3,500名 | 約10,000t |
| 偵察(ドローン) | 約40名 | 約15h |

活動期間
10月14日
～11月23日

延べ活動隊員数
約6,650名



炊き出し



(平第四小学校) 入浴支援お見送り

20



3 経験を明日に活かす

- (1) いわき市台風第19号等における
災害対応検証委員会の設置
- (2) 夏井川・好間川改良復旧事業に
係る連絡調整会議の設置



(1) いわき市台風第19号等における災害対応検証委員会

① 設置目的

台風第19号等に係る災害により本市が甚大な被害を受けたことから、地域防災計画等に基づく本市の災害対応業務が十分に機能したか把握するとともに、課題等を明らかにし、その結果を今後の防災対策に反映するため設置した。

② 検証内容

発災直前から発災後の初動対応期（発災～72時間）における[情報収集・発信等の市の災害対応](#)及び[市民の避難行動](#)等を中心に検証し、各委員から、それぞれの立場に基づく様々な御意見をいただいた。



【組織構成】

委員会は、市長から委嘱を受けた学識経験者、有識者等で組織。

○委員長

東日本国際大学 副学長 福迫昌之 氏

○副委員長

東北大学災害科学国際研究所

助教 杉安和也 氏

市行政嘱託員(区長)連合協議会

会長 金成克哉 氏

○委 員 5名



③ 検証結果(最終報告)

| 検証項目 | 検証結果による課題解決の方向性 |
|--------------------|--|
| 1 情報伝達のあり方について | ① 情報は、文章形式から箇条書きにするなど、わかりやすい表現に改善する。 ② 防災ラジオの貸与対象者の拡大に取り組む。 ③ 消防サイレンを活用し、訓練等により、サイレン吹鳴(水防信号)の意味を周知する。 |
| 2 避難所開設・運営のあり方について | ① 避難所の分散化を図り、初期段階から避難所の開設数を増やす。 【常設避難所数】(見直し前) 45箇所 → (見直し後) 79箇所 ② 垂直避難等が可能となる施設は避難場所として位置付ける。 ③ トイレトレーラーなどの導入、洋式トイレの整備に取り組む必要がある。 |
| 3 避難行動のあり方について | ① 自動車避難について、基本的な考え(高台や浸水想定区域外への避難の促進)を作成し、市民に周知する。 ② 避難行動要支援者名簿の同意率が低いため、同意取得に向けた制度内容の周知を図る。 |
| 4 災害対策本部の対応について | ① 災対本部、地区本部及び災害発生現場と連携強化及び情報共有を図るため、「テレビ会議システム」、「災害情報共有システム」の導入を図る。 ② 災害対策本部設置・運営マニュアルを整備し、初期対応訓練を実施する。 ③ 被災地のニーズ把握と支援体制に係る基準やマニュアル等を整備する。 |
| 5 自助・共助・公助の役割について | ① 自主防災組織の結成促進と、補助や研修の拡充などによる機能強化を図る。 ② 協定の相手方と改めて連絡体制や応援要請の方法等を再確認する。 |
| 6 新型コロナウイルス感染症対策 | ① 衛生用品の設置、スペース確保、パーティション設置等の対策を講じる。 ② 避難方法は避難所に行くだけでなく、避難場所等における「自動車避難」や、住宅が安全ならば「在宅避難」など、多様な避難方法を周知すべきである。 |



(2) 夏井川・好間川改良復旧事業に係る連絡調整会議の設置

【設置目的】

福島県が実施する夏井川・好間川改良復旧事業の早期完成を図るため、福島県・いわき市の関係部署が連携して、必要となる各種の協議・調整を円滑に進めることを目的として、夏井川・好間川改良復旧事業に係る連絡調整会議を設置した。

【組織構成】

- 委員長 いわき市副市長
- 副委員長 福島県いわき建設事務所長、いわき市土木部長
- 委員 23名

夏井川・好間川災害復旧助成事業概要

事業箇所：夏井川・好間川 (L=21.5km)
 ■ 夏井川：新川合流点～小川町両郡橋付近 (L=14.9km)
 ■ 好間川：夏井川合流点～新町田橋上流約1km地点 (L=6.6km)
 事業期間：令和元年度～令和5年度(予定)
 事業費：約305億円(助成事業とあわせた県単事業を含む)
 工事概要：河道掘削工、築堤工、護岸工、橋梁工等





○ 破堤箇所の本復旧工事に係る進捗状況

【夏井川・大念仏】



令和2年7月30日撮影



【好間川・正当】



令和2年7月30日撮影



25



ご清聴ありがとうございました

東日本大震災

東日本台風

全国の皆様からのご支援、ご声援に
心から感謝を申し上げます

いわき市民を代表して、御礼申し上げます



令和元年東日本台風を経験して 伝えたいこと

令和2年10月29日(木)

長野市長 加藤 久雄



ながのご縁を
信都・長野市

浸水被害

10月13日アグリながぬま



浸水面積

| 地区 | 浸水面積 |
|-----------|----------|
| ①篠ノ井 | 371 ha |
| ②松代 | 156 ha |
| ③若穂 | 80 ha |
| ④豊野・長沼・古里 | 934 ha |
| 合計 | 1,541 ha |

建物の被害



10月15日長沼支所周辺



長沼支所

住家被害 (5月31日現在)

| 全壊 | 大規模 半壊 | 半壊 | 一部損壊 | 計 |
|-----|-----------|-------|-------|-------|
| 872 | 292 | 1,226 | 1,671 | 4,061 |

市公共施設被害

| 全壊 | 半壊 | 一部破損 | 床上浸水 | 床下浸水・ その他 |
|----|----|------|------|--------------|
| 5 | 1 | 25 | 45 | 21 |

※上下水道局関係除く

災害廃棄物と堆積土砂

災害廃棄物 約2万4千トン
「One Nagano(ワンナガノ)」
による搬出



災害廃棄物(赤沼公園)



夜間排出作業



農地の堆積土砂
堤内地 163ha
堤外地 181ha
排出量 計20万^m³

避難指示発令等の対応(未明)

■10月13日(日)

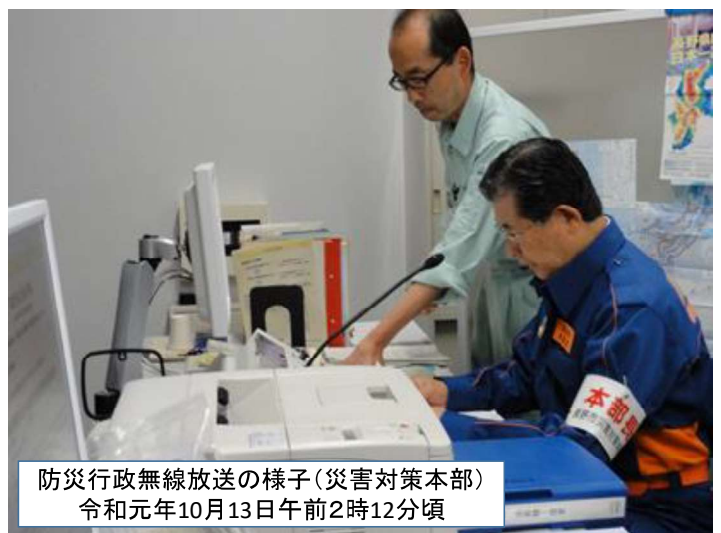
2:12 市長自ら、防災行政無線で避難を呼びかけ

- 越水現場で、警察が声かけをしても避難しない人や畑で様子を見ている人などがいるという報告を受けた。
- 緊急事態が迫っていたため、私自身がマイクを持ち、避難を呼びかけることにした。

「市長の加藤久雄です」

—自ら防災行政無線で呼びかけあらゆる手段で避難を促す

- 自治体トップからの呼びかけは住民に大きな危機意識を生み、住民に避難を促す重要な手段
- 市長名のエリアメールも有効
- メールを受け取れない高齢者等には地区役員の呼びかけも必要
- 氾濫直後に、地元消防団が咄嗟の判断で「火の見やぐら」の半鐘を鳴らしたことも地域住民の避難につながる



防災行政無線放送の様子(災害対策本部)
令和元年10月13日午前2時12分頃

ハード(堤防)整備だけでは安全・安心は保証できない —住民にも理解と自助の意識を

- 完成堤防でも決壊の可能性があることが今回の教訓
- ハードの整備だけでは安全・安心を100%保証することはできない
- **「自分の身は自分で守る」**を共通認識に
- 長沼地区は過去に何度も大水害を経験。住民は自ら身を守る危機意識が高い
- **住民の危機意識の高さが、人的被害を最小限に抑えることにつながった**



令和元年10月13日午前2時12分頃の破堤現場付近の映像

災害時応援協定

—機能するか 見直しが必要

- 40～50年も前に締結したままの「災害時応援協定」には、機能しなかったものも一部あった。
- 一方で、協定に基づき千曲川が決壊した13日の早朝には、ほとんどの避難者の所に朝食6,000食を即座に供給いただいた業者もあり、避難者への大きな力となった。
- **災害時応援協定がきちんと機能するかどうか、日頃から見直しが必要**

避難所運営

9

—職員に権限を与え、ニーズに応じた迅速な対応めざす

- 最大54か所の避難所に6,000人以上が避難
- 避難所の現場職員に権限を与える。

「今必要なことはあなたの権限でやってよい。」

やりすぎたら私が責任を取るから」

- 人間関係に強く、被災者と信頼関係を築ける優秀な職員を、責任者として配置
- 私自身も、発災直後から避難所を回り、被災者の声を聞き、現場の状況を見て翌日の災害対策本部会議で指示



避難所で避難住民の話聞く
令和元年10月14日18時頃 豊野西小学校

避難者の生活再建を促す

10

—対応策の期限を明確に

- 不安を抱える被災者に、いつ新しい生活を始められるのか「見通し」を示していくことが大事
- 発災後1週間後には「11月末には避難所を閉める。仮設住宅もそれまでに造る」と宣言
- 避難所での生活の長期化→自立が困難になる前に新たな生活へ
- 12月3日に避難所を1か所に統合。

段階的に食事の提供を縮小。

12月20日には、それぞれの住まいに移っていただけた。



木造応急仮設住宅
工期2か月で完成し12月から入居を実現
令和元年11月28日 上松東団地

被災者の生活支援・産業復興支援

- **被災者見守り支援担当を配置**。長野市生活支援・地域ささえあいセンターの生活支援相談員や保健師などと連携し被災者の見守り
- 被災事業所を個別訪問し、被害状況の確認と復旧に向けた相談や支援を実施
- 農業の再開に向けて、農地の体積土砂の撤去と農業用機械・施設の修繕・再取得等の助成
- 令和元年12月に「復興局」を設置し、令和2年4月に「長野市災害復興計画」を策定
- 7月に「災害検証報告書」をまとめ、現在「災害記録誌」を作成中



心ひとつに。「がんばろうNAGANO」

ONE  HEART



ご清聴ありがとうございました。

～平成30年7月豪雨災害の経験を教訓に～

「防災・減災」に向けた新たな取組



令和2年10月29日
呉市長 新原 芳明

“中核市サミット 2020 in 倉敷” パネルディスカッション
～災害から「生き抜く」ためのまちづくり～

1 平成30年7月豪雨災害の被害状況①

□ 多くの人的・家屋等の被害に加え、断水の長期化や大量の災害廃棄物等が発生し、商工業や観光等の産業面にも大きな影響を及ぼした。

➤ 人的・家屋等被害（R2年9月末時点）

| | |
|-----|---|
| 死亡 | 29人（災害関連死4人を含む） |
| 負傷 | 22人 |
| 家屋等 | 3,230件 |
| 内訳 | 全壊324件，大規模半壊133件，半壊766件，一部損壊1,266件，床下浸水741件 |



土砂洪水氾濫（大屋大川）

➤ 避難状況（最大時：H30年7月9日）

| | |
|--------|-----------------|
| 避難所開設数 | 134施設（最長89日間開設） |
| 避難者数 | 409世帯・1,418人 |



河川氾濫（JR安浦駅周辺）

1 平成30年7月豪雨災害の被害状況②

- 土砂災害等により、市内各所で道路や鉄道が被災したことで、深刻な交通渋滞が発生し、市内外の人流・物流に多大な支障を来した。



J R呉線（写真左から、天応駅付近、安登駅付近、安浦駅付近の被災現場）

②

2 呉市復興計画の策定①

【基本理念と基本方針】

- 豪雨災害からの復旧・復興に向けた基本理念と今後取り組むべき施策を定めた復興の指針として、平成31年3月に呉市復興計画を策定した。

【基本理念】

～災害に強い幸せで魅力的な都市を目指して～

- ① 被災者の方々が被災前の当たり前の生活を取り戻すこと
- ② 被災したインフラなどの早期の回復
- ③ 市民や企業が、イキイキ・わくわくと活動することができ、市民が今後も住み続けたいと思えるまち
- ④ 観光客が訪れてみたいと思えるような交流都市

【基本方針】

1 住まいと暮らしの再建

- 被災者支援 ○子ども・子育て支援
- 廃棄物・土砂処理

2 災害に強い安全・安心なまちづくり

- 土木施設等の強靱化 ○公共施設等の強靱化
- 上下水道施設の強靱化 ○交通基盤の強靱化

3 産業・経済の復興

- 地域産業の復旧・復興

4 今後の防災・減災に向けた取組

- 防災・減災に向けた体制の強化

③

2 呉市復興計画の策定②

【施策体系図】

【基本理念】

～災害に強い幸せで魅力的な都市を目指して～

| 【基本方針】 | 【施策】 | 【重点取組項目】 |
|------------------------|----------------|--|
| 1 住まいと暮らしの再建 | (1) 被災者支援 | 被災者の生活支援・見守り・心のケア 住まいの再建 |
| | (2) 子ども・子育て支援 | 子どもと子育て家庭の支援 児童・生徒の支援 |
| | (3) 廃棄物・土砂処理 | 被災家屋撤去及び土砂混じりがれき撤去 災害廃棄物・土砂等の処理 |
| 2 災害に強い 安全・安心なまちづくり | (1) 土木施設等の強靱化 | 土木施設等の復旧・強化 農林水産業基盤施設の復旧・強化 復旧・復興事業の見える化 |
| | (2) 公共施設等の強靱化 | 公共施設等の復旧・強化 |
| | (3) 上下水道施設の強靱化 | 上下水道施設の復旧・強化 |
| | (4) 交通基盤の強靱化 | 交通の強化・確保・渋滞対策 |
| 3 産業・経済の復興 | (1) 地域産業の復旧・復興 | 商工業の復旧・復興 観光の復興 農水産業の復旧・復興 港湾・物流機能の強化 |

□ 豪雨災害の経験を教訓とした新たな取組

| | | |
|------------------|--------------------|------------------|
| 4 今後の防災・減災に向けた取組 | (1) 防災・減災に向けた体制の強化 | 防災力の向上 未来への継承 |
|------------------|--------------------|------------------|

④

3 今後の防災・減災に向けた取組①

□ 今後の災害に備え、避難情報等の伝達方法の見直しや、避難所の在り方の見直しをはじめ、防災力の向上に向けた取組を推進

(1) 情報伝達方法の見直し

NHKデータ放送や防災情報メール配信サービス、緊急速報メール、防災行政無線などの活用に加え、新たな情報伝達方法を導入

⇒ 様々な媒体を活用し、迅速かつ正確に情報を伝達

【具体的な取組】

- **自治会へのファクシミリ一斉送信**（令和元年度 運用開始）
ファクシミリによる地域への避難情報の伝達
- **一斉電話伝達サービス**（令和2年6月 運用開始）
携帯電話やスマートフォンを所有していない方や目の不自由な方に、避難情報等を事前に登録している固定電話へ音声で案内
- **呉市公式LINE・Twitterのアカウント開設**（令和2年9月 運用開始）
行政情報や避難情報等を広く発信することを目的として開設

⑤

3 今後の防災・減災に向けた取組②

(2) 避難所の在り方の見直し

地域の実情にあった避難所の在り方や避難所での生活の長期化を想定した備蓄品の充実、生活環境の改善等を実施

⇒ 市民の安心・安全の確保と避難所生活の負担軽減等

【具体的な取組】

➤ **新たな避難所の指定等** (24避難所)

豪雨災害後の新たな避難所の指定等

地域に身近な一時避難所として民間保育園を活用



➤ **避難所の備蓄品目の充実**

避難所に必要な新たな備蓄物資の導入等

【新規整備】発電機、投光器、エアマット等

➤ **避難所の環境（設備）改善**

一部の避難所における空調設備整備やトイレの洋式化等

⑥

3 今後の防災・減災に向けた取組③

(3) その他の取組

➤ **地域井戸の利活用の推進** (令和2年度 運用開始)

個人や団体(自治会・事業者等)が所有する井戸の利活用の推進
(登録制度、団体が所有する登録井戸の修繕・改修費の助成)

➤ **災害時協定の締結**

・ 株式会社ナフコ (物資供給)

・ **マイライフ株式会社** (妊産婦等福祉避難所の設置及び運営)

・ 海生産業株式会社 (無人航空機を活用した災害応急対策活動)

・ いしだカメラ店 (無人航空機を活用した災害応急対策活動)

□ 令和元年9月2日(月)に、マイライフ株式会社と「災害時における妊産婦等福祉避難所の設置及び運営に関する協定」を締結



ヘルスケア複合施設
『オールファーマシータウン』
2階のフィットネスエリアに
災害時、福祉避難所を開設

⑦

3 今後の防災・減災に向けた取組④

(3) その他の取組

➤ 自主防災会等による避難訓練実施の促進

市民への災害等に対する事前準備の呼びかけ（市長メッセージ）やモデル的な訓練方法の提示等による避難訓練実施の促進



昭和地区・第3団地自主防災会連合会主催の「防災まちあるき点検」の様子
(R元年5月19日(日)実施)

➤ 災害記録誌の発行

平成30年7月豪雨災害の記憶を風化させることなく未来へ継承し、災害の教訓として活かしていくことを目的として発行

- 災害時にご尽力いただいた市内外の関係機関・団体や呉市内の全小中高等学校等へ配布し、呉市のホームページへも掲載（発行部数：1,000部）



⑧

4 最後に

「自らの命は自らが守る」意識の醸成と、
「自助・共助」と「公助」の連携促進による
災害に強い、幸せで魅力的な都市「呉市」の実現
に向けて、全力・一丸となって取り組めます。

～呉市ホームページに、災害復旧・復興に向けた取組を掲載しています。～

呉市復興総室のURL

<https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/200/>



⑨

平成30年7月豪雨災害の経験を生かした 災害に強いまちづくり



1年6か月ぶりに元の小学校へ通学する子どもたち（令和2年1月8日）



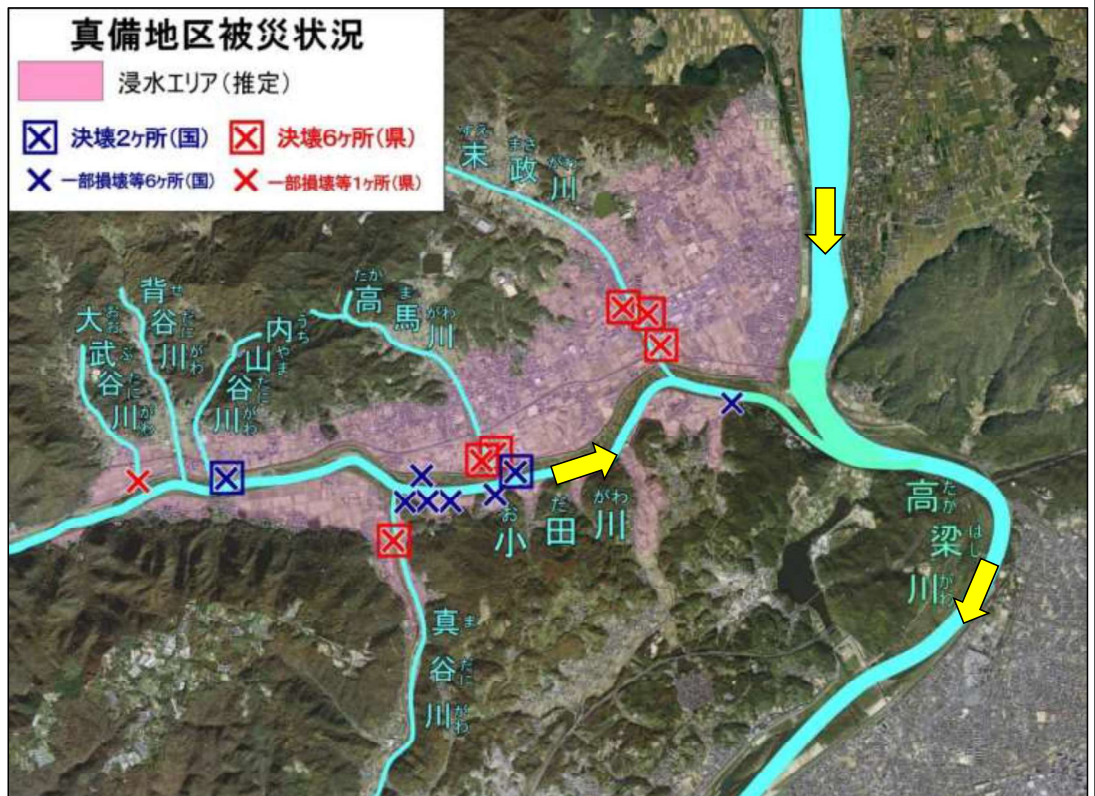
令和2年10月29日



倉敷市長 伊東香織

【倉敷市真備町の浸水・被害状況】

倉敷地点では、**260.0ミ**という観測史上1位の降水量（48時間累加雨量）を記録する大雨となり、**国管理河川2か所、県管理河川6か所が決壊した**



真備地区4,400ヘクタールのうち1,200ヘクタールが
水没、市街地が深さ約5mまで浸水した

亡くなられた方 73名 (災害関連死 21名を含む)
全壊・大規模半壊等 5,753世帯



自衛隊・消防・警察・住民等による人命救助・捜索活動により、
ボート等で住宅の屋根や2階のベランダなどに取り残された約
2,350名を救出した



【避難所の対応】

平成30年7月7日には、市内68か所の避難所に、大幅に定員を超える5,500人以上の被災者が避難した



(同日、市保健師による
健康管理活動を開始)



(避難所環境向上のため、クーラー(7/10)、段ボールベッドや間仕切り(7/12)を導入)

【ライフライン(水道)の復旧を急ぐ】

地区全域の約8,900戸が断水。平成30年7月9日に、住民の衛生状態確保(破傷風予防など)・熱中症予防と、復旧活動のため、飲用不可とした上での通水を開始

| | |
|-------|----------------------------|
| 7月 7日 | 真備地区全域(約8,900戸)が断水 |
| 7月 9日 | 小田川北側区域: 試験通水(飲用不可)として給水開始 |
| 7月11日 | 小田川南側区域: 試験通水(飲用不可)として給水開始 |
| 7月16日 | 小田川南側区域: 断水解消(飲用可) |
| 7月24日 | 真備地区全域: 断水解消(飲用可) |



(管路の修繕)



(臨時給水所(真備支所)(7/10))

【ボランティアの皆さまによる活動】

平成30年7月11日に市災害ボランティアセンターを開設。
 全国からの皆さまのご協力で、家の前や地域の広場、道路沿い
 などへの片付けごみの搬出が進んだ

(延べ 76,495人が活動)



(全国から駆け付けてくださったボランティアの皆さま)



(真備地区内に駐車できないため
 バスで現地へ)



【災害廃棄物の撤去対応】

災害廃棄物の発生量は約35万トン、市内の約2年分のごみの
 量に相当し、自衛隊をはじめ、事業者、他自治体、ボランティア
 等の多大な協力を頂いた



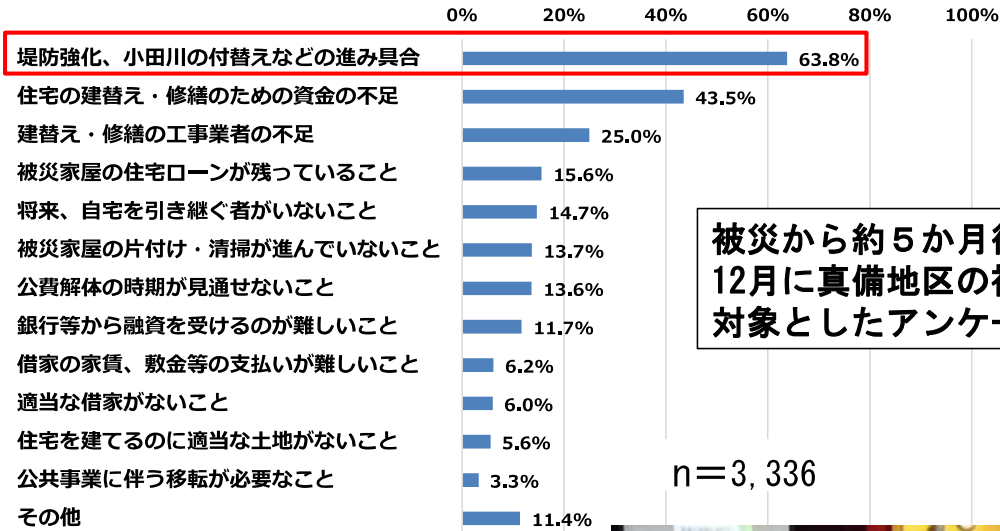
(真備地区内の幹線道路沿い約4 kmにわたって災害廃棄物が積み上がった)



平成30年8月25日までに真備地区内の住宅地・道路沿い等から
 地区外の仮置き場への搬出を完了

【復興に向けて住民が求めていること】

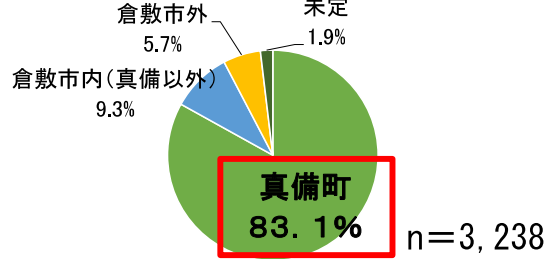
問) 住まいの再建に向けた課題



被災から約5か月後の平成30年12月に真備地区の被災世帯を対象としたアンケート調査

n=3,336

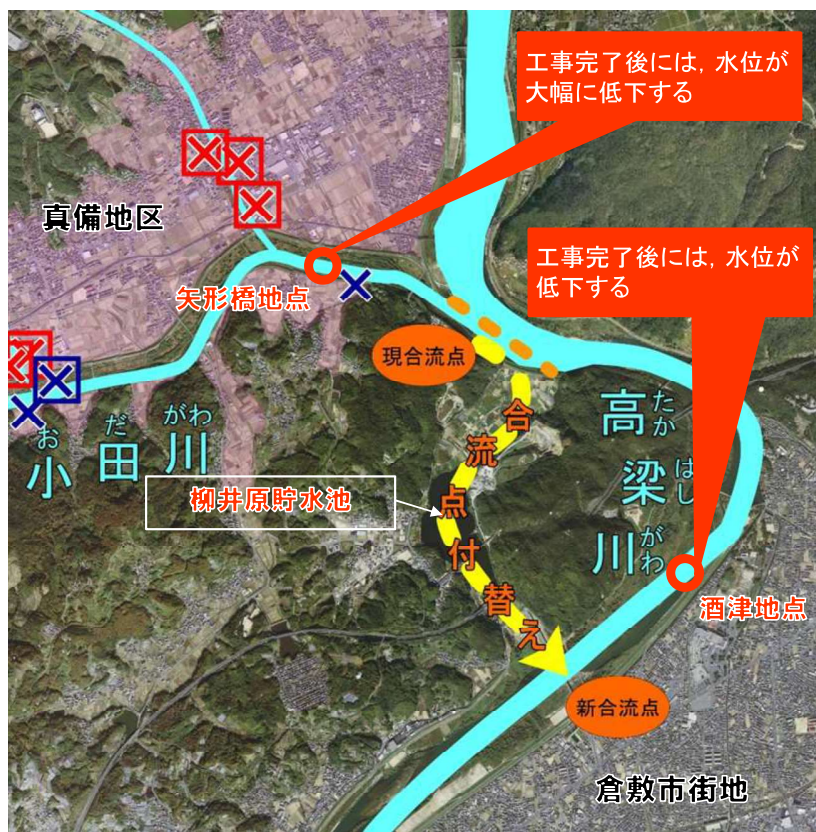
問) 今後居住する予定・もしくは希望する地域・地区



真備地区復興懇談会及び復興ビジョン説明会を平成30年度に計11回開催 (延べ 約900名が参加)

【治水対策 ①小田川合流点付替え事業】

平成30年9月7日に、国は小田川合流点付替え事業完了の5年間前倒しを決定 (事業完了：令和5年度)

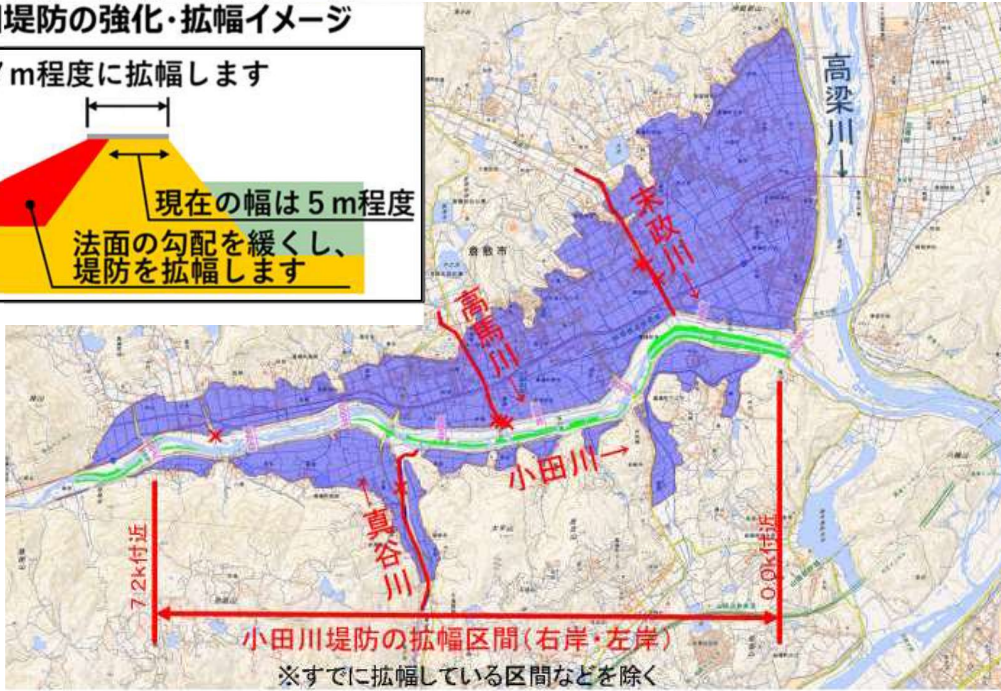
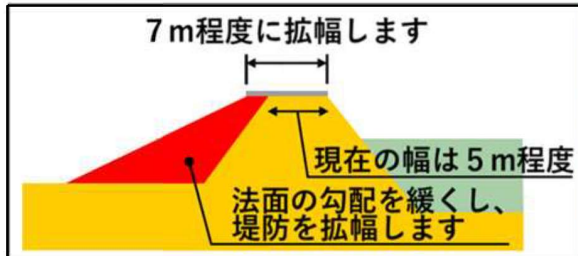


- 【事業効果】**
- 洪水時に高梁川の背水影響が軽減され、小田川の水位が大幅に低下
⇒小田川沿川（真備地区）の水害リスクが大幅に低減される
 - 現合流点と新合流点の間で流量が減少することにより、酒津地点の水位が低下
⇒倉敷市街地の水害リスクが低減される

【治水対策 ②小田川堤防の強化】

平成31年2月8日に、堤防道路（市道）を、市と国で協力して幅7メートル程度に拡幅することを発表。
 具体的には、小田川等の河道掘削で発生する土砂を有効活用し、堤防断面の拡大を実施

小田川堤防の強化・拡幅イメージ

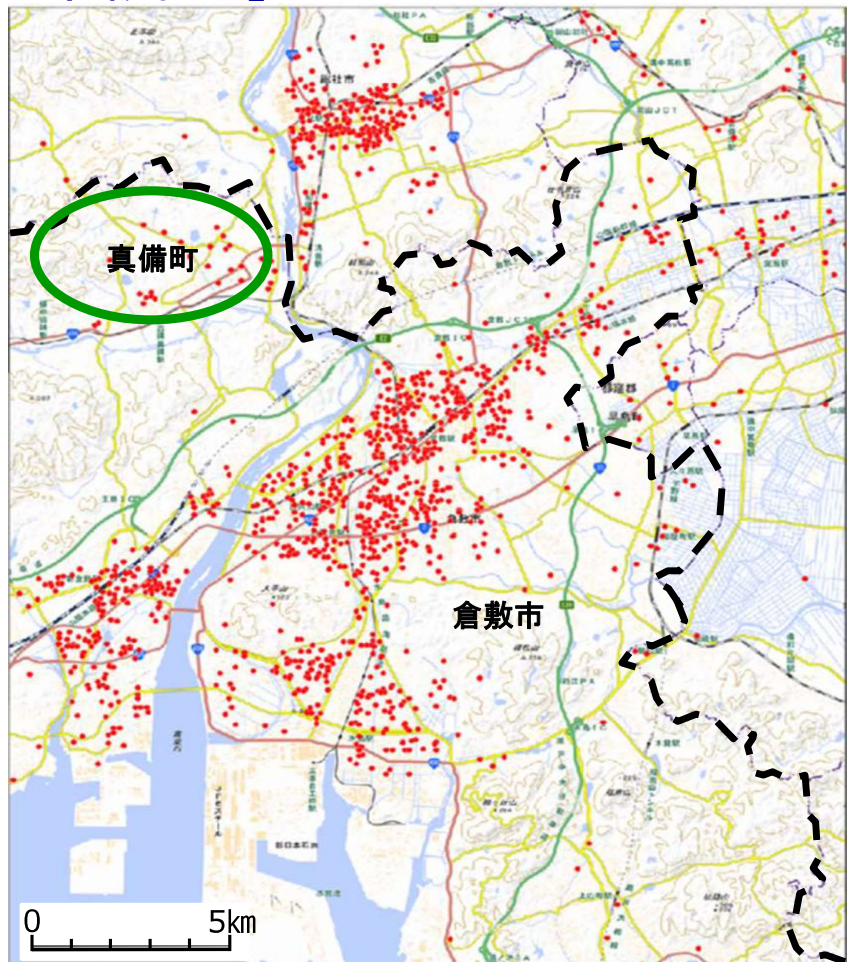


【住まいの確保 ①借上型仮設住宅】

平成30年7月17日から借上型仮設住宅の申込受付を開始し、市内外に被災者が居住

借上型仮設入居世帯
 最大 3,030世帯
 (平成30年12月時点)

※令和2年9月末：639世帯



【住まいの確保 ②建設型仮設住宅】

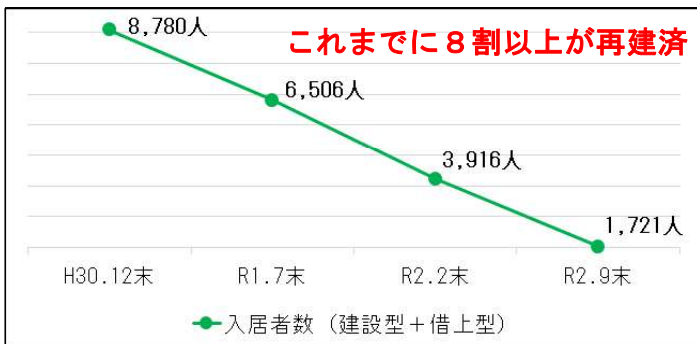
13

平成30年7月23日に、建設型仮設住宅200戸の整備を発表し、8月3日から順次着工、9月8日から順次入居を開始
(最終的に266戸を整備)



プレハブ（3か所）+木造（2か所） トレーラーハウス（1か所）（トレーラーハウス（内部））
（市場仮設団地53戸ほか）（柳井原仮設団地51戸）

（仮設住宅（建設型+借上型）入居者推移）



柳井原仮設団地のトレーラーハウスは、東日本大震災や平成28年熊本地震で休憩施設等として活用された例があったため、倉敷市では、**全国で初めての応急仮設住宅として活用した**

【住まいの確保 ③被災高齢者への住宅再建支援】

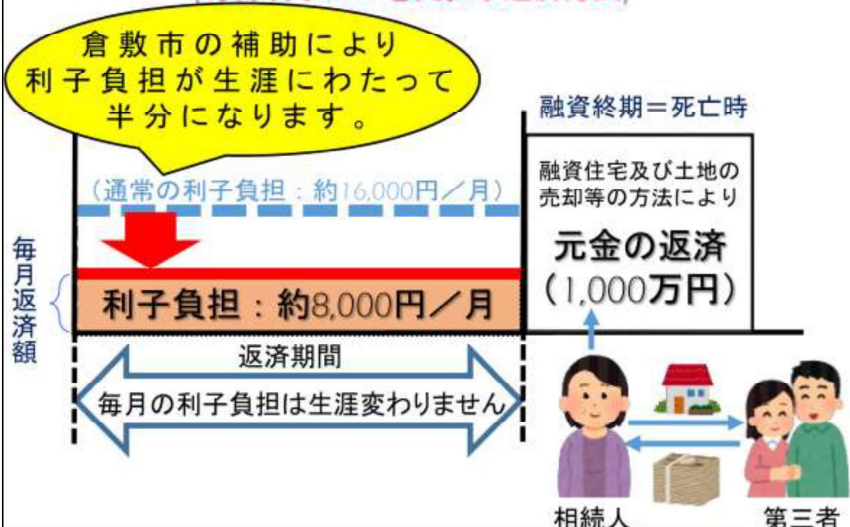
14

年齢により通常の融資を受けることが困難な、60歳以上の被災者を対象として、**自宅再建を支援するため、住宅金融支援機構と連携して全国初の制度を創設**

(件数：114件 (令和2年9月末))

【リバースモーゲージ型融資】の支払いのイメージ

(毎月利息のみを支払う返済方法)



※1 対象融資額1,000万円以内に対し、市が住宅金融支援機構に利息1/2相当額を助成

※2 利息負担額は、以下の条件で試算した場合

<試算条件>

| | |
|--------------|---------|
| 住宅再建費用 | 1,300万円 |
| 自己資金 (支援金など) | 300万円 |
| リバースモーゲージ型融資 | 1,000万円 |
| 融資金利 | 0.98%※3 |

※3 令和元年5月1日現在の災害復興住宅融資 (高齢者向け返済特例) の融資金利1.95%の半分

本制度利用者に対するアンケートでは、**この制度がなければ68%の方は自宅再建を断念していた**との結果 (「国立研究開発法人建築研究所」が令和元年11月に実施)

【学校教育の復旧】

平成30年7月19日に、真備地区の**学校再開方針を発表**

- ・ 2学期（9月3日）から授業を再開する
- ・ 被災した学校は、真備地区のプレハブ校舎設置までの間は、市内他地区の校舎を使用する
- ・ 通学には、スクールバスを運行する
（最大で41台、約1,300人が利用）
- ・ 学校は元の場所で復旧させる



【被災者の見守り支援】

7月13日から、保健師等により、全被災者の訪問等を行う全戸把握事業を実施し、被災者の健康状態等を把握。

さらに、9月3日には、全戸把握事業での情報を生かし、見守り支援事業を相談支援員等50名体制で実施し、延べ約37,800世帯を訪問支援

<見守り支援対象>

- ・ 応急仮設（建設・借上）、公営住宅入居世帯
- ・ 被災直後からの在宅世帯 ・ 親戚・知人宅入居世帯
- ・ 住まいの再建（仮設退去後）世帯



【公民館・地区分館の復旧】 16

地域コミュニティの拠点である公民館・地区の分館を早期に復旧

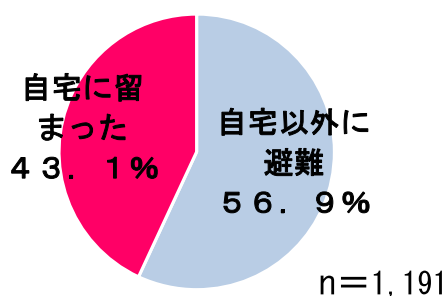
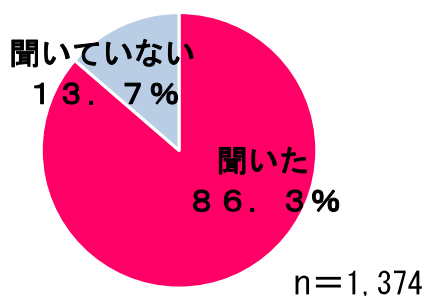


【住民自らが命を守る避難行動への転換】

17

(真備地区全域への避難勧告を聞いた割合)

(自宅以外に避難した割合)



「倉敷市災害に強い地域をつくる検討会」を設置

(委員長：片田敏孝 東京大学大学院特任教授)

<検討内容>

【住民への情報提供や周知のあり方】

- 住民による防災情報の入手や確実な伝達

【住民による自主的な避難を促進するための検討】

- 地区防災計画の策定支援
- 防災教育の推進
- 避難行動要支援者の避難対策の推進



(第1回検討会の様子 (R1.9.17))

【危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラの設置】

18

住民自らも河川の水位を確認できるように、危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラを国・県が設置



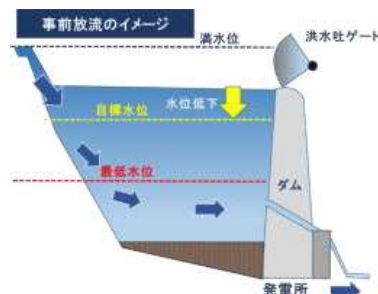
【災害公営住宅を活用した「浸水時緊急避難場所」の設置】

新たに整備する災害公営住宅について、建物の屋上などを、地区の「浸水時緊急避難場所」として活用



【ダムの事前放流】

高梁川水系の首長で、上流のダム管理者に対して、事前放流の実施を強く要請し、令和元年6月中旬から運用開始



【地区防災計画の策定促進】

- ・ 防災講演会などを開催し、機運を醸成
- ・ 出前講座を活用し、自主防災組織など育成
- ・ 防災士養成講座により防災士など育成
- ・ 参考となる手引きや各種ツールの提供



(住民ワークショップによる、災害リスクの共有や避難計画の検討)

【学校における防災教育の推進】

- ・ 小学校3年生、5年生に新たに3時間の防災学習（総合的な学習の時間）を追加し、全ての学校で共通した内容を指導



(マイタイム・ライン検討ツール「逃げキッド」)

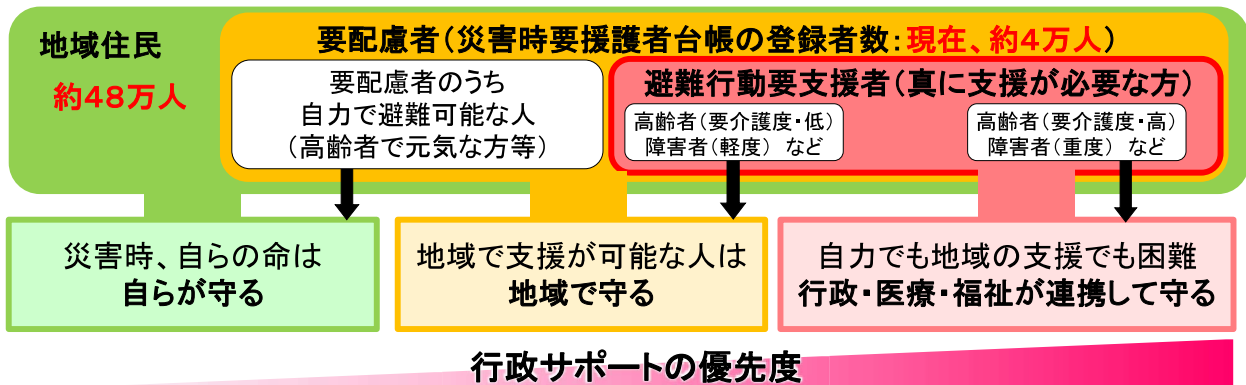


(小学校社会科副読本)



(マイ・タイムラインの教材を用いた避難場所や避難行動の確認)

【避難行動要支援者への対応】



【「流域治水」への転換】

河川管理者だけでなく、河川流域全ての関係者が協働して行う治水対策への転換

<これまでの対応>

- ・ 台風等に備えた用水路の事前排水による流出抑制策、ダム事前放流、防災知識の普及対策など

<今後の対応>

- ・ 雨水管理総合計画に基づく対策、災害リスクを踏まえた立地適正化計画の検討、透水性舗装など雨水貯留浸透施設の導入、田んぼダムの導入など

流量調整のせき板 設置なし



流量調整のせき板 設置あり



(「田んぼダム」の導入検討)

第2パネルディスカッション

コロナに「打ち勝つ」観光文化のまちづくり

コーディネーター **丁野 朗 氏**

東洋大学大学院国際観光学部 客員教授

コメンテーター **大原 あかね 氏**

公益財団法人大原美術館 理事長

《趣旨》

これまで、全国の各地域では、地方創生の実現に向けて、郷土への愛着と誇りの醸成につながる町並み保存、文化財の総合的な活用、地場製品の振興などといった地域資源のブランド化や観光客の拡大につながる様々な取組を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、現在、国内外における交流は停滞し、地域経済は大きな打撃を受けています。

本パネルディスカッションでは、各中核市での地域の個性と魅力の創出に向けた取組を紹介するとともに、「新しい生活様式」を踏まえたまちの魅力発信や交流拡大など地域経済の回復につなげるコロナに「打ち勝つ」ための方策等について議論します。

| | |
|------|-------|
| 八王子市 | 48 P～ |
| 岐阜市 | 55 P～ |
| 奈良市 | 60 P～ |
| 長崎市 | 70 P～ |

八王子市における 歴史文化を活かしたまちづくり



八王子市の概況



| | |
|--------|--|
| 位置 | 東京都心から西へ約40km(新宿から電車で約40分) |
| 面積 | 186.38km ² (南北11km×東西24km) |
| 人口 | 561,662人(住民基本台帳 令和2年3月末日現在) 577,513人(国勢調査集計結果 平成27年10月1日現在) |
| プロフィール | ・大正6年の市制施行から平成29年で100年 ・平成27年4月からは、東京都初の中核市 ・21の大学を抱えた学園都市 |

八王子市の観光



高尾山



八王子市の観光

八王子城跡
(日本100名城)



滝山城跡
(続日本100名城)



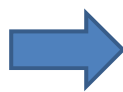
八王子芸妓



観光への“コロナ”の影響は…

年間300万人と言われている

高尾山の観光客



約8割以上減少！
(4～5月)

<高尾山商店会の様子>



歴史文化を活かしたまちづくり



①歴史文化基本構想

八王子の歴史文化を未来へ伝える

『八王子の歴史文化 百年の計』



八王子の歴史文化の特徴
関連文化財群「はちおうじ物語」

八王子の歴史文化の特徴 関連文化財群 「はちおうじ物語」

歴史文化資源を
歴史（時間）とテーマ性により
ストーリー化



歴史文化資源をパッケージ化
することによって高めた魅力を
発信する。

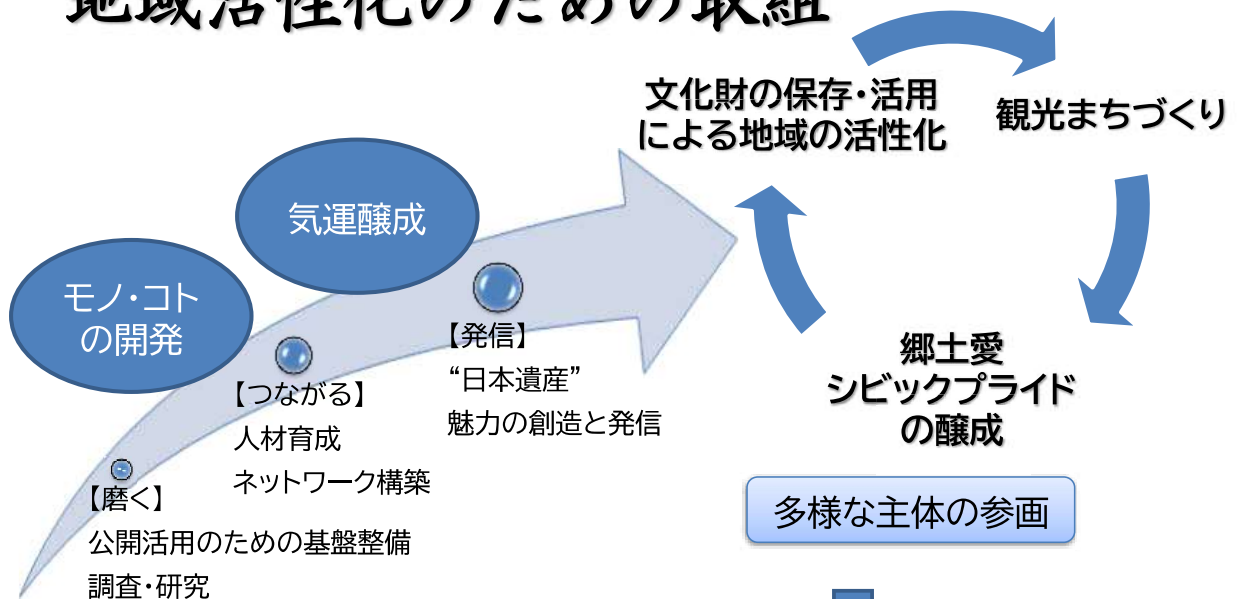
| 歴史文化の特徴 | 「はちおうじ物語」のテーマと時代背景 | | | |
|------------------|--------------------|-----------------------------|----|-----|
| | 原始・古代 | 中世 | 近世 | 近現代 |
| 原始・古代の歴史文化 | 其の一 | 原始・古代の遺跡が語る人々の営み | | |
| 交通の要衝としての歴史文化 | 其の二 | 東 西 南 北 い に し え の 道 | | |
| 中世の歴史文化 | 其の三 | 中世の武士たちと「まちづくり」の礎 | | |
| 近世の歴史文化 | 其の四 | 八 王 子 宿 と 千 人 同 心 | | |
| 絹織物の歴史文化 | 其の五 | 桑 都 八 王 子 は 織 物 の ま ち | | |
| 絹の道の歴史文化 | 其の六 | 世 界 と つ な が っ た 絹 の 道 | | |
| 自然との共生による歴史文化 | 其の七 | 自 然 と の 共 生 で 育 ま れ た 里 | | |
| 高尾山の歴史文化 | 其の八 | 祈 り の お 山 高 尾 山 の 魅 力 | | |
| 地域に伝わる伝統文化 | 其の九 | 季 節 を 彩 る 年 中 行 事 と 伝 統 文 化 | | |
| 石碑や地名から読み解く地域の歴史 | 其の十 | 地 名 や 石 碑 に 残 る 地 域 の 記 憶 | | |

②日本遺産



霊気満山 高尾山
～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～

日本遺産を活用した 地域活性化のための取組



関係団体・民間企業・大学等との連携により
八王子の歴史文化の魅力を高め
持続可能な好循環を生み出す

“withコロナ”時代の観光まちづくり

◆ マイクロツーリズムの推進

- 58万市民の市内観光
- 大都市東京・首都圏からの観光客の誘致



観光動向の変化

これまで

- ・多くの観光客に訪れてもらう

現在

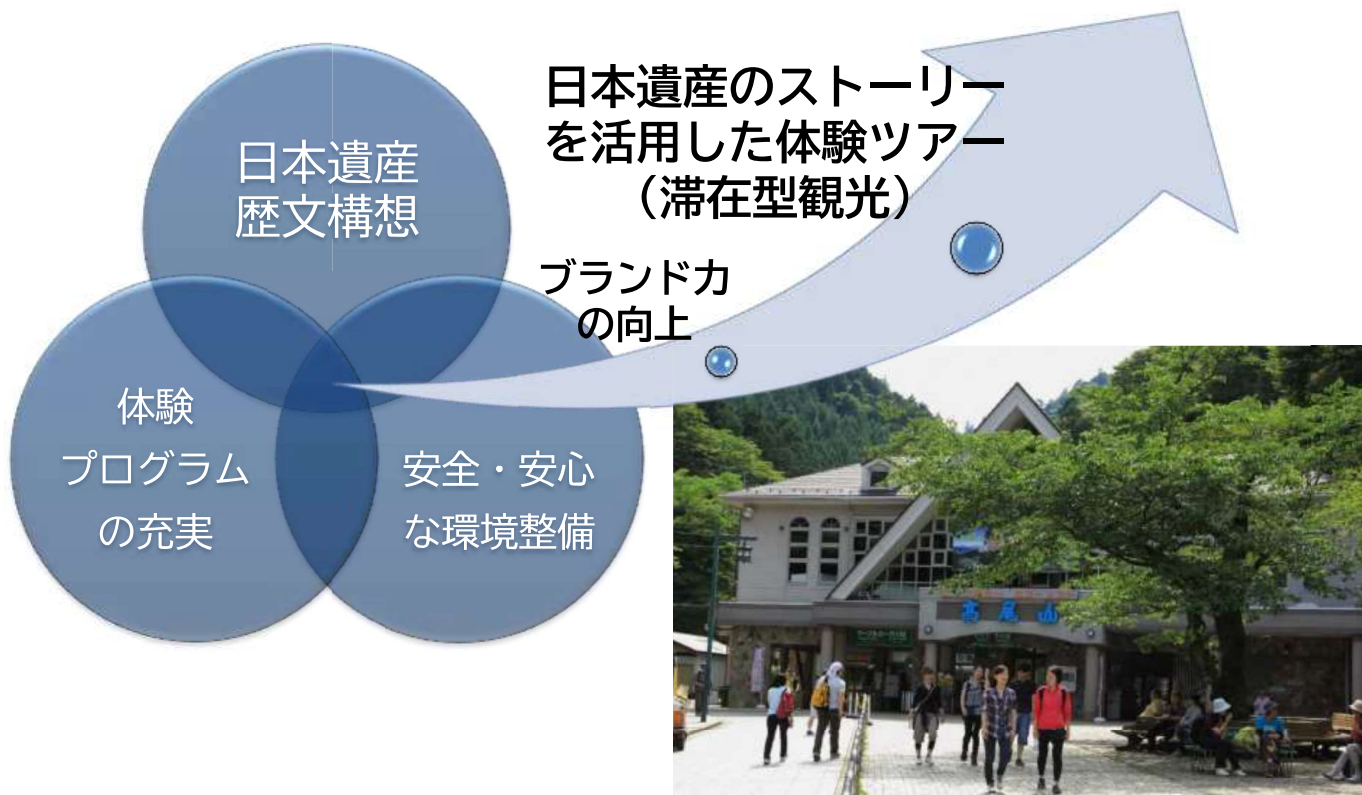
- ・コロナ対策
- ・観光地に人が集まりすぎないように

これから

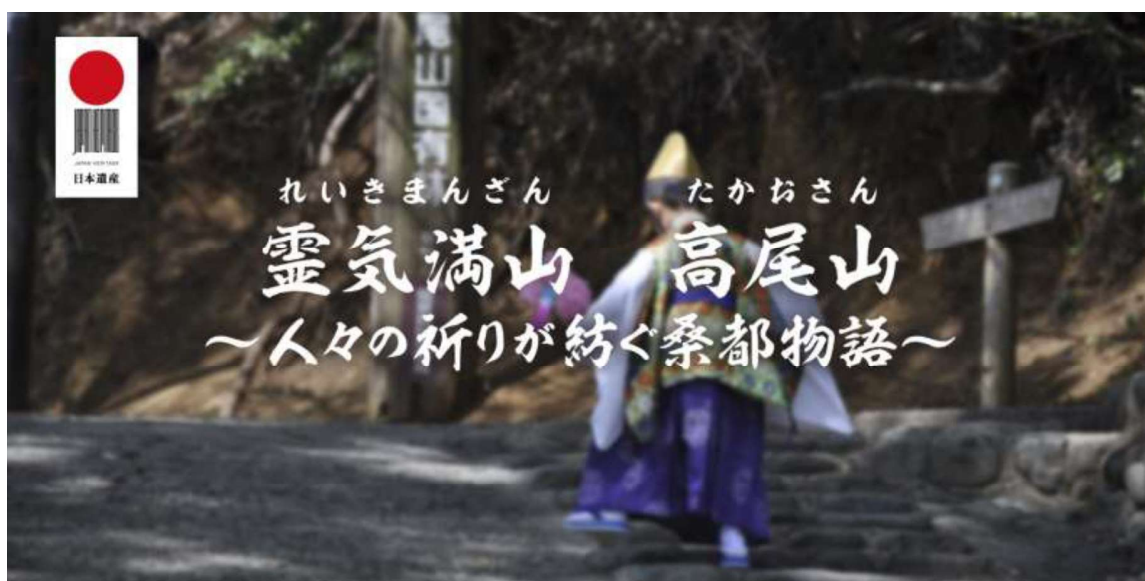
- ・量より質へ
- ・観光の付加価値、満足度を高めていく

今後の観光文化のまちづくり

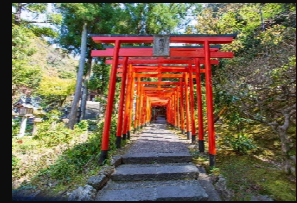
コロナ収束後
インバウンド
誘客へ！



ご清聴ありがとうございました



八王子市長 石森 孝志



本物志向の観光まちづくり

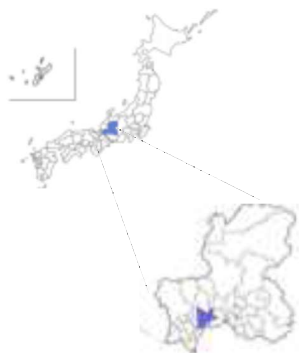
岐阜市長 柴橋 正直

令和2年10月29日



Gifu city 1

岐阜市の紹介



◆面積：約204km²
◆人口：約40万人

長良川・金華山



岐阜城



岐阜長良川の鵜飼



岐阜公園



川原町



伝統工芸品



麒麟がくる
岐阜大河ドラマ館

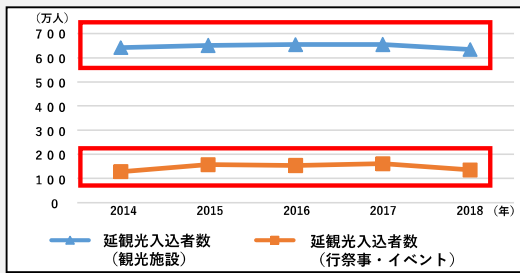


観光の現状と今後の取り組みの方向性

岐阜市の観光の現状

以下出典：岐阜市観光ビジョン

○観光入込の現状



○岐阜市内における一人当たりの観光消費額

| 項目 (円) | 日帰り観光 | | | 宿泊観光 | | | |
|---------------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|
| | 岐阜市民 | その他全国 | 外国人 | 合計 | その他全国 | 外国人 | 合計 |
| 飲食費 | 1,767 | 2,132 | 2,815 | | 5,226 | 5,479 | |
| 入場料・利用料金等 | 207 | 417 | 663 | | 781 | 1,598 | |
| 買物 (みやげ代等) | 789 | 1,058 | 2,613 | | 2,078 | 3,674 | |
| 宿泊費 (連泊の場合総額) | 0 | 0 | 0 | | 11,347 | 9,802 | |
| 岐阜市までの交通費 | 87 | 741 | 1,379 | | 4,595 | 2,283 | |
| 岐阜市内での交通費 | 68 | 78 | 533 | | 509 | 583 | |
| ツアー・バック料金 | 28 | 42 | 277 | 17,285 | 608 | 354 | 54,300 |
| その他 | 25 | 24 | 0 | | 391 | 0 | |
| 合計 | 2,971 | 4,493 | 8,279 | 3,869 | 25,535 | 23,773 | 25,418 |

※金額は小数点以下第1位を四捨五入して表示しているため、項目ごとの金額を足し合わせた金額と合計金額が一致しないものを含む

岐阜市観光ビジョンの基本理念

① シビックプライド～市民の誇りにつながる観光～

〈既存の観光魅力の向上と新たな魅力の創出〉

② 観光を基軸とした持続可能なまちづくり

〈「まちを守り、歴史文化を継続し、産業を維持し、人が住み続ける」取り組みの推進〉

③ 稼げる岐阜観光を目指して～観光振興による産業活性化

〈市内回遊性の向上や観光関連産業の活性化による地域内消費循環率の向上〉

3

鵜飼観覧船事業の課題と取り組み

◆持続可能な鵜飼に向けて

課題

- ・ 人材不足
 - 宮内庁色部職鵜匠の後継者 (世襲制) や船頭、舟大工等の担い手の減少
- ・ 台風などの影響
 - 観覧船の流出
- ・ 画一的な観覧方法
 - 観覧船からの観覧



船頭体験



舟大工育成

取組

- ・ 長良川鵜飼 船頭体験教室
 - 子ども向けの体験教室の開催
- ・ 鵜舟の舟船大工育成事業
 - 鵜舟製作を通じて技術承継を実施
- ・ 観覧船の係留方法やドックの形状の検討
- ・ 鵜飼の新たな観覧方法
 - 棧敷からの観覧 (社会実験)



従来の観覧方法



新たな観覧方法

皇室に初鮎を献上

◆世界無形文化遺産登録に向けて

課題

- ・ 国内外の認知度不足

取組

- ・ 無形文化遺産国際フォーラムの開催
- ・ 長良川鵜飼文化応援団の活動

国際フォーラム(イメージ)



4

岐阜城、金華山の課題と取り組み

◆岐阜城・金華山の再整備

課題

- ・ 史跡岐阜城跡の保存、活用
- ・ 岐阜城の耐震性

取組

- ・ 発掘調査等による全容解明
 - ▶ 天守台石垣
- ・ 調査の過程を観光へ
 - ▶ 調査現地の見学会を開催
- ・ クアオルト健康ウォーキング
 - ▶ 健康寿命の延伸を図るとともに、新たな体験型観光資源としてPRし、交流人口の拡大へ
- ・ 耐震化に向けた計画の策定



天守台の石垣発掘調査



クアオルト健康ウォーキング



岐阜城耐震化



山頂を含む史跡岐阜城跡全体を大切な文化財として将来へ継承するとともに、観光資源として有効活用していくため、「史跡岐阜城跡整備基本計画」の策定を進める

岐阜公園の課題と取り組み

◆都市公園の魅力向上と民間活力の導入

課題

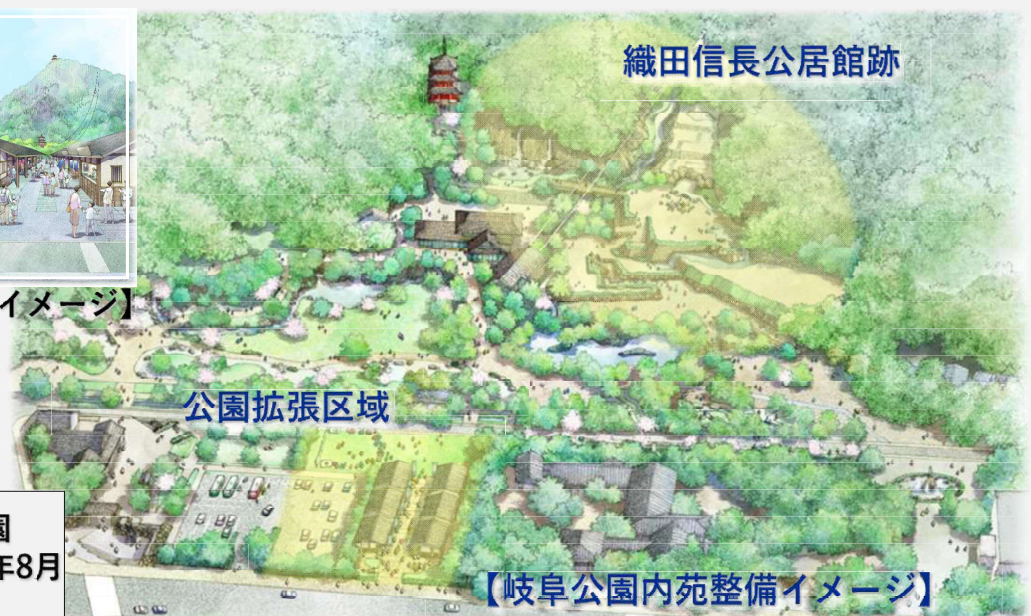
- ・ 歴史的価値と金華山、長良川の自然環境を活かした再整備の推進
- ・ 来園者へのサービスの充実

取組

- ・ 『国史跡岐阜城跡』と連携した施設整備
- ・ 民間活力を活かした魅力的で効率的な整備（飲食、物販施設など）



【公園拡張区域整備イメージ】



織田信長公居館跡

公園拡張区域

【岐阜公園内苑整備イメージ】

公園種別：総合公園
開設年月：明治15年8月
開設面積：約22ha

清流長良川に育まれた伝統工芸品の課題と取り組み

◆岐阜の伝統工芸品（岐阜和傘、岐阜提灯など5品）

課題 持続可能な産業とすべく、後継者を育成



岐阜和傘

加納藩主が下級武士の内職として和傘づくりを奨励したことから地場産業として確立。多くの職人の手を経て製造され、各製造工程で**熟練技術**を要する手作業部分が多くある。



岐阜提灯

経済産業大臣指定「伝統的工芸品」

地形が卵形に細いヒゴを巻き、薄い和紙を張って、花鳥、風景等が描かれた**繊細**で**優美**な工芸品。岐阜で生産されるものを「岐阜提灯」と呼び、日本有数の産地を誇る。

●民間の力・若い方の活躍



伝統的な技術や技法が承継されるよう支援

新型コロナウイルス感染症対応の課題と取り組み

課題

感染防止を図りながら落ち込んだ観光業の回復を図る

- ・長良川温泉旅館協同組合宿泊者数の減少（4-6月）前年79,801人 → 7,487人（前年比△90.6%）
- ・主要観光施設の入込状況（4-6月）前年202,544人 → 77,257人（前年比△61.9%）

①回復に向けての支援

観光キャンペーンの実施



①市民対象

市民地元再発見宿泊キャンペーン事業

利用者の声

「長良川河畔の美しさ、歴史情緒は輝いていて本当に宝物である」

「鵜飼は何度観ても素晴らしい」

「岐阜の良さをかんじることができた」

「友人や両親を誘いたい」

（宿泊者アンケートより）



②県民対象

県民モニター情報発信ツアー事業

③対象を順次拡大

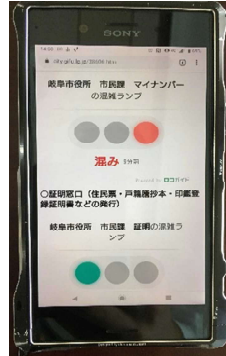
新型コロナウイルス感染症対応の課題と取り組み

②新しい生活様式に対応した観光

赤外線サーマルカメラの導入(感染防止対策の強化)



混雑ランプの導入(密集・密接を避ける)



民間の取り組み:長良川スタンダードの実施



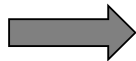
鵜飼観覧方法の改善
(定員削減、スマホ決裁)



混雑ランプとは
➤施設の混雑情報をリアルタイムでお知らせする情報サービス



長良川スタンダードとは
➤岐阜長良川温泉旅館協同組合に加盟する7施設の若手メンバーが委員会を立ち上げ、作成した新型コロナウイルスの感染防止対策のガイドライン



安全・安心な観光へ

本市の魅力を高め

『本物志向の観光まちづくり』

を一層推進

ご清聴ありがとうございました。

中核市サミット2020 in 倉敷

テーマ:『コロナに「打ち勝つ」観光文化のまちづくり』



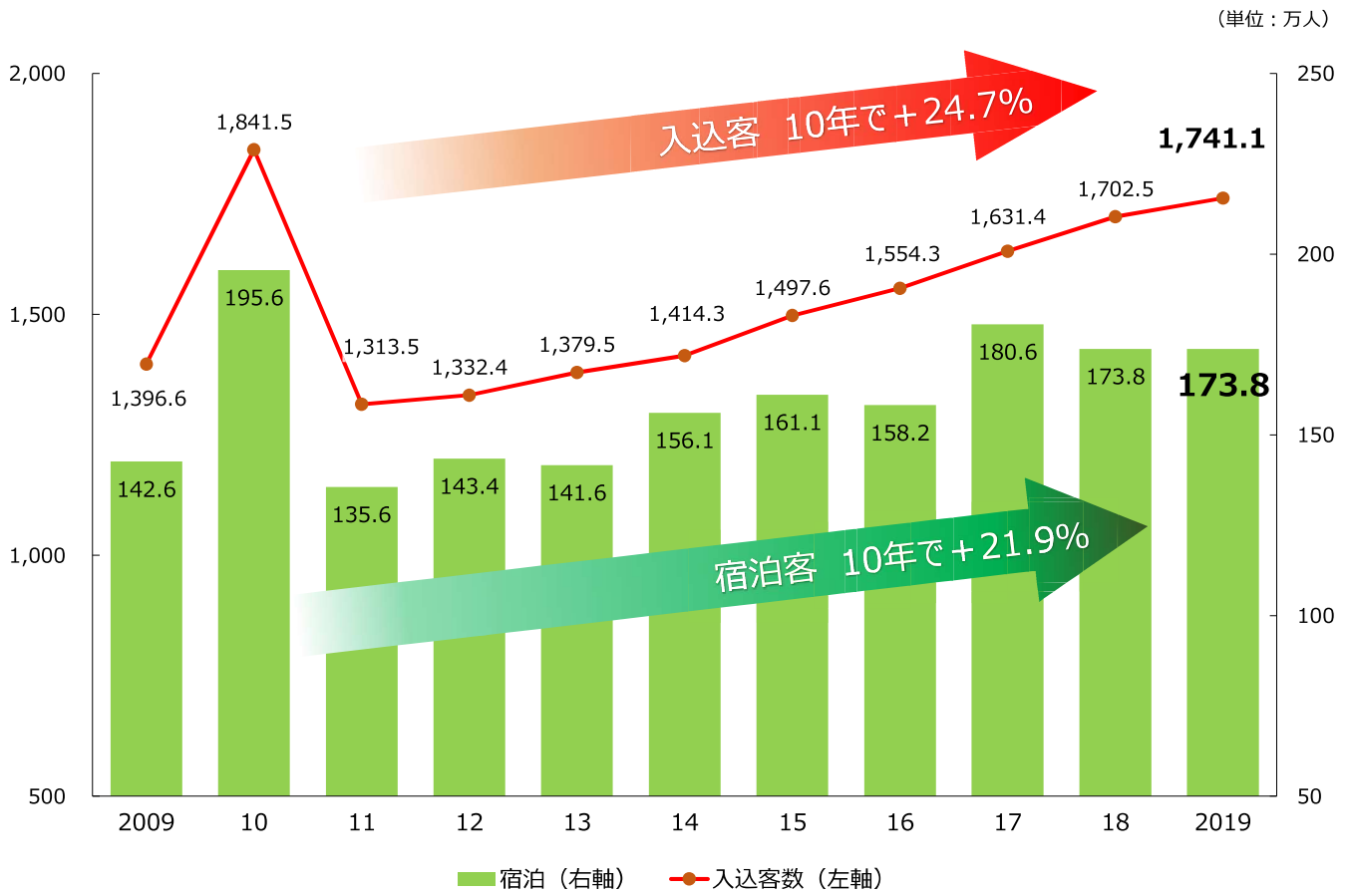
令和2年10月29日
倉敷アイビースクエア

奈良市長 仲川 げん

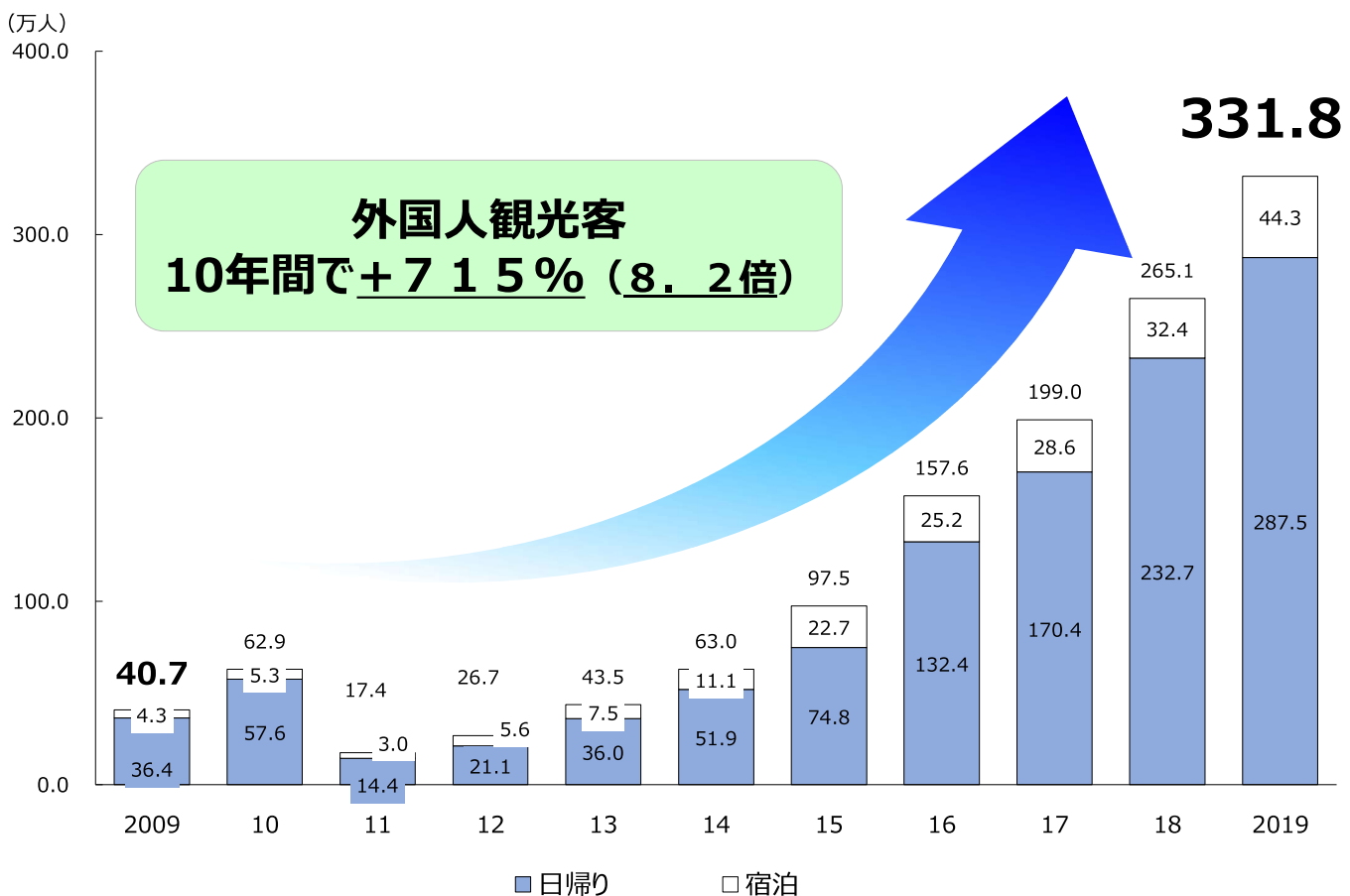
1. 奈良市の現状

- 2019年までの観光入込客の推移（全体・外国人・修学旅行）
- 観光入込客に占める各属性割合
- コロナ禍の影響（2019年と比較して）

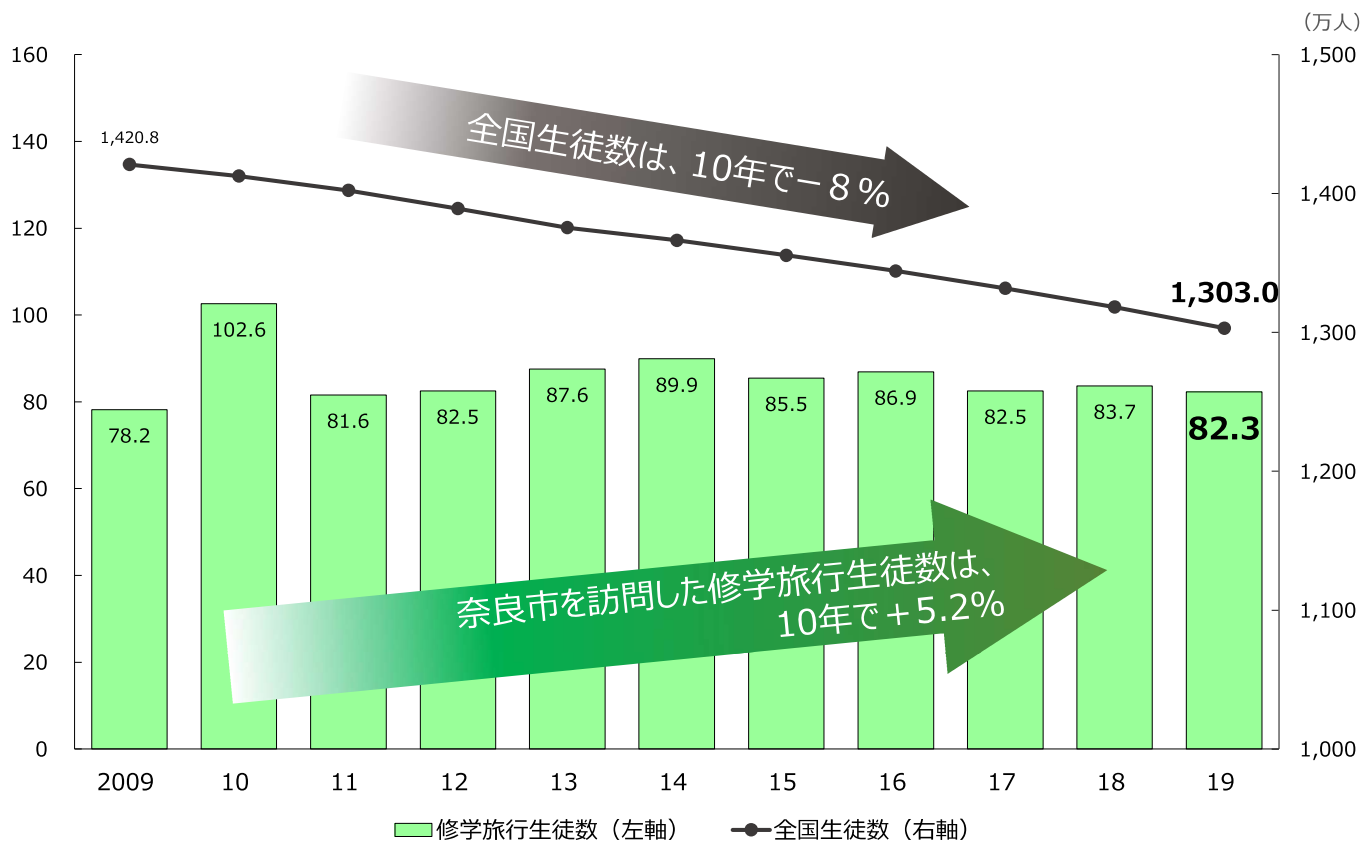
■ 2019年までの推移 ■ 全体



■ 2019年までの推移 ■ 外国人



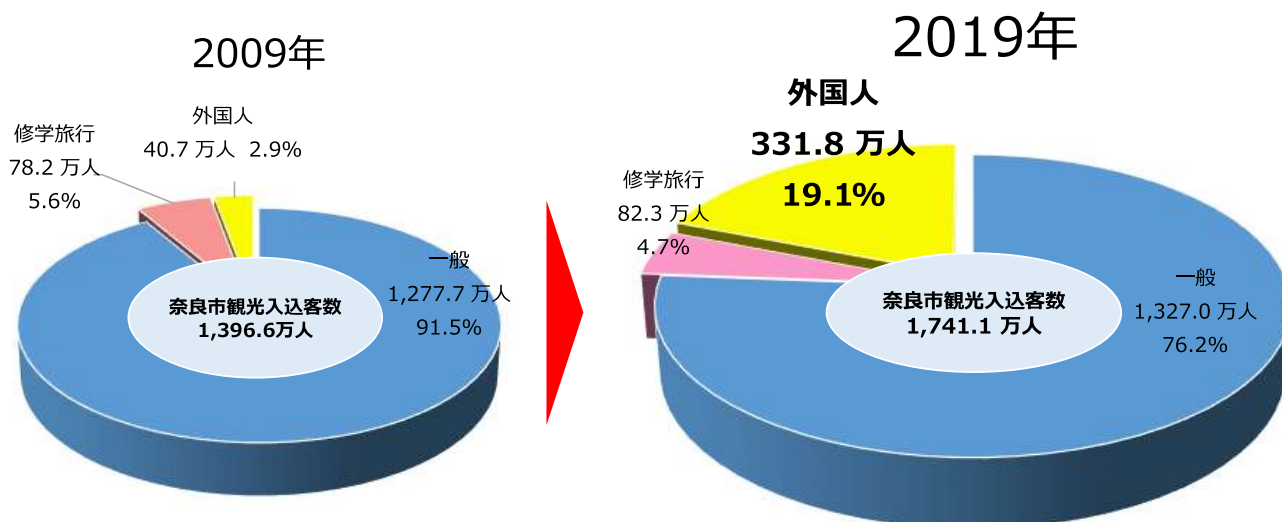
■ 2019年までの推移 ■ 修学旅行



在学者数：文部科学省「学校基本調査」

■ 2019年までの推移 ■ 観光入込客に占める各属性割合

全体の観光客に占める外国人観光客の割合は
10年間で17.8ポイント増加



➤ コロナ禍の影響（2019年と比較して）

| 項目 | コロナ禍の影響 | 項目 | コロナ禍の影響 |
|------|--|------------------------|--|
| 一般 | <p><参考 KDDI LOCATION ANALYZER> 緊急事態宣言発令中の日本人滞在者※前年同期比</p> <ul style="list-style-type: none"> ●近鉄奈良駅周辺：-69.7% ●奈良公園周辺：-84.8% ●奈良町周辺：-76.5% ●平城宮跡：-65.0% <p>※エリア内に30分滞在した人 (対象期間、4月16日～6月7日)</p> | 観光案内所 案内件数 (日本人) | <p><総合観光案内所及び 近鉄奈良駅観光案内所の合計></p> <p>4月… 999人 (前年比 -93.4%) 5月… 0人 (前年比 -100.0%) 6月… 2,994人 (前年比 -71.1%) 7月… 3,801人 (前年比 -52.9%)</p> |
| 修学旅行 | <p><参考 (8/27時点) 旅館・ホテル組合データ> 宿泊を伴う修学旅行生の数 (令和2年度予約数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～ 6月… 0校 ・7月～ 3月… 約749校 (約6.1万人) <p>※全国教育委員会などへ、8月11日付で「安心安全な奈良旅行」の文書を発出し、誘致している。</p> | 観光案内所 案内件数 (外国人) | <p><総合観光案内所及び 近鉄奈良駅観光案内所の合計></p> <p>4月… 125人 (前年比 -99.4%) 5月… 0人 (前年比 -100.0%) 6月… 63人 (前年比 -99.5%) 7月… 134人 (前年比 -99.1%)</p> |
| 外国人 | <p><訪日外客統計 (日本政府観光局統計) ></p> <p>4月… 2,900人 (前年比 -99.9%) 5月… 1,700人 (") 6月… 2,600人 (") 7月… 3,800人 (")</p> | 奈良県の延べ 宿泊者数 | <p><宿泊旅行統計調査 (観光庁) ></p> <p>4月… 39,600人 (前年比 -85.4%) 5月… 25,700人 (前年比 -91.3%) 6月… 57,000人 (前年比 -73.9%) 7月… 未発表</p> |

2. 受入環境整備の強化

- 観光案内所の状況
- 観光案内所の機能強化
- 奈良市観光センター機能強化整備及びサービス施設運営の概要・状況

- **総合観光案内所** ★カテゴリ 3
開所時間 9:00~21:00 (年中無休)
 - **近鉄奈良駅観光案内所** ★カテゴリ 2
開所時間 9:00~21:00 (年中無休)
 - **観光センター** ★カテゴリ 1
開所時間 9:00~18:00 (年末年始は休所の場合あり)
 - **西ノ京臨時観光案内所**
開所時間 9:30~16:00 (繁忙期の土、日、祝日と、イベント開催時に開所)
 - **奈良町南観光案内所** ★カテゴリ 2
開所時間 9:00~17:00 (年中無休)
 - **京終駅観光案内所** ★カテゴリ 1
開所時間 11:00~19:00 (休:毎週水曜日)
 - **きたまち鍋屋観光案内所**
開所時間 10:00~16:00 (休:毎週水曜日)
 - **きたまち転害門観光案内所**
開所時間 10:00~16:00 (休:毎週木曜日)
- ★印はJNTO(日本政府観光局)外国人観光案内所の認定カテゴリ

各案内所管理運営事業者

| | |
|--------------|--------------------------------|
| 総合観光案内所 | (公社)奈良市観光協会 |
| 近鉄奈良駅観光案内所 | |
| 観光センター | |
| 西ノ京臨時観光案内所 | |
| 奈良町南観光案内所 | (有)くるみの木 |
| 京終駅観光案内所 | 特定非営利活動法人 京終 |
| きたまち鍋屋観光案内所 | 鍋屋連絡所の保存・活用と奈良きたまちなちづくりを考える会 |
| きたまち転害門観光案内所 | 転害門前旧銀行建物活用協議会なら・観光ボランティアガイドの会 |

【参考】JNTOの外国人観光案内所認定制度

| 分類 | 運営の考え方 | 多言語化対応等 | 求められる立地 |
|-------|-------------|---|---|
| カテゴリ3 | 観光案内のゲートウェイ | 英語を含む3言語以上での対応(英語はスタッフが常駐)ができ、全国の観光や交通の状況提供ができる。 | 外国人旅行者が我が国のゲートウェイとして最初に訪れる地域または特に多く訪れる地域 |
| カテゴリ2 | 次の目的地への橋渡し | 英語で対応できるスタッフが常駐し、広域の観光や交通の情報提供ができる。 | 外国人旅行者が観光の拠点として多く利用し、ローカルな情報に加え、次の移動先などの広域的な情報の提供が求められる地域 |
| カテゴリ1 | 地域情報の交流拠点 | パートタイムで英語対応が可能なスタッフがおり、または、電話通訳サービスや多言語翻訳システム等により英語対応でき、地域内の観光や交通の情報提供ができる。 | 外国人旅行者の最終目的地となり、ローカルな情報の提供が求められる地域 |

観光案内所の機能強化

■ 総合観光案内所 (平成27年度機能強化整備)

- JR奈良駅旧駅舎(昭和9年建築)を利用した観光案内所。奈良の玄関口として、増加する外国人観光客に対応するため、多言語による観光案内や手荷物預かりなどを実施。JNTO外国人観光案内所の最高ランク「カテゴリ3」に認定。
- 英語・中国語・韓国語スタッフを配置し、全国の観光案内を実施
 - 案内所内部及び外部に多言語サインを設置
 - 外貨両替機、祈祷室、授乳室、多機能トイレ、手荷物預かり、ライブラリーコーナー、情報検索用iPadを設置
 - カフェ「スターバックスコーヒー」(平成28年開店)



■ 観光センター「NARANICLE(ナラニクル)」(平成29年度機能強化整備)

- JR奈良駅と近鉄奈良駅の間地点・中部公民館1階に位置する観光センター。観光客の市内での滞在時間の延長をめざすとともに、地域市民も気軽に利用できるよう、飲食・物販施設や体験コーナー等を整備。JNTO外国人観光案内所「カテゴリ1」認定。

- 英語スタッフによる観光案内
- カフェ&レストラン「カフェ エトランジェ・ナラッド」で、地元食材を使用したメニューを提供
- 書道や伝統工芸などの体験や、セミナーを実施
- 外貨両替機、授乳室、多機能トイレを設置



■ 近鉄奈良駅観光案内所 (平成27年度機能強化)

- 近鉄奈良駅ビル内にある観光案内所。JNTO外国人観光案内所「カテゴリ2」認定。
- 英語スタッフが常駐し、近畿圏内の観光案内を実施
 - 外貨両替機を設置



1. 事業の概要

奈良市観光センター機能強化整備及びサービス施設運営

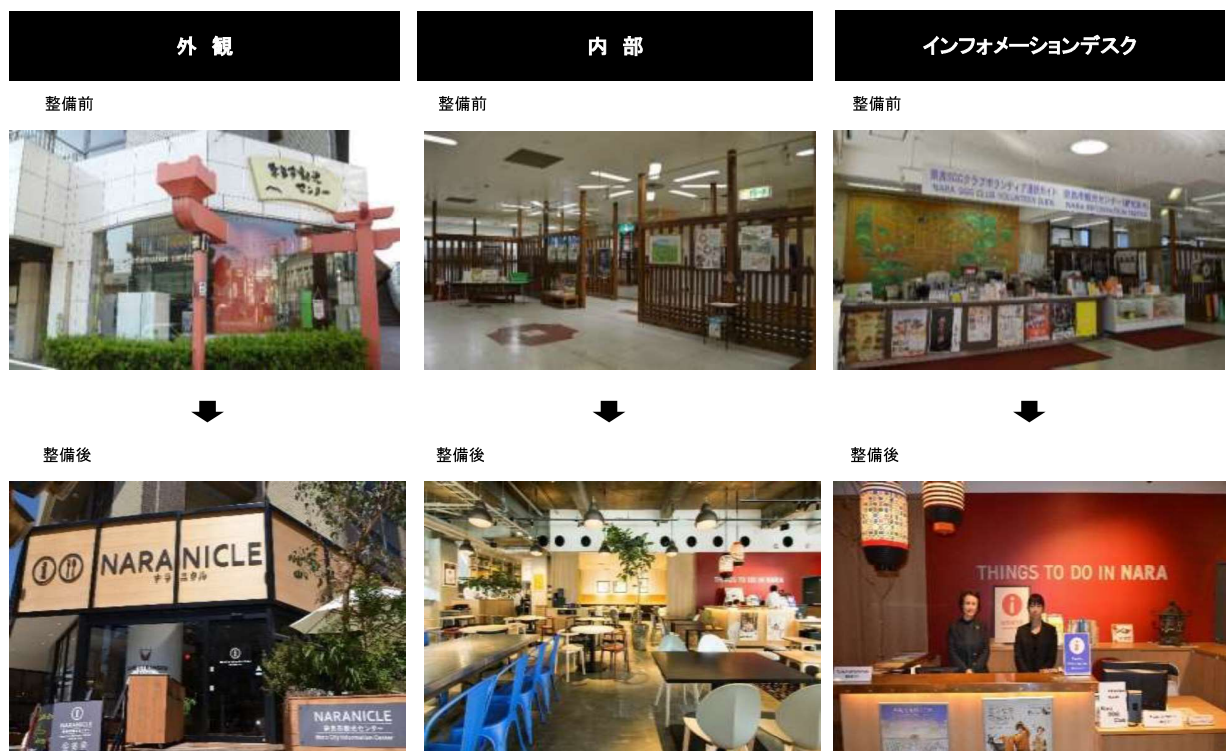
2. 事業内容

- ①公共主体 奈良市
- ②民間主体 株式会社バルニバービ
- ③所在地 奈良市上三条町23-4（中部公民館1階）
- ④面積 658.5㎡
- ⑤用途 観光案内所（インフォメーションデスク、体験スペース等）、飲食店
- ⑥事業手法 「観光案内所機能強化整備」と「サービス施設（飲食店等）運営」を一体で実施する民間事業者を、公募型プロポーザル方式により選定。機能強化整備を委託するとともに、サービス施設運営のための行政財産使用許可を与える。
- ⑦事業費 28,000,000円（観光案内所の整備のみ。サービス施設整備は民間負担）
- ⑧活用した制度等 なし
- ⑨効果
 - ・観光案内所と飲食店が一体となった空間デザインにより、施設自体が洗練されたため、外国人観光客や若者が利用しやすくなった。飲食店ができたことで施設での滞在時間が長くなり、賑わいの醸成に繋がっているほか、奈良産食材や特産品の認知度向上に寄与している。
 - ・バルニバービは、行政財産使用料（約370万円／年）を市に、共益費を観光協会に納入。共益費は、観光センターの修繕費等に使用している。

3. 主な経過

- 平成28年 9月 方針決定
- 10月 実施事業者選定、委託契約締結
- 平成29年 2月 整備開始
- 5月 整備完了
- 6月 リニューアルオープン
（観光案内所と飲食店「カフェ エトランジェ・ナラッド」が同時オープン）

奈良市観光センター機能強化整備状況



3. コロナ禍における観光への取り組み

- 観光協会案内業務を無人化・見える化へシフト
- 国の臨時交付金を活用した取り組み

観光協会案内業務を無人化・見える化へシフト

- デジタルサイネージを活用した観光案内に加え、混雑状況や災害情報などを多言語にて情報発信
- 観光案内の機械化（チャットボット）による案内所職員の業務負担の軽減と、高付加価値サービスの提供
- 飲食店や施設の混雑状況を見える化することで、3密を回避した周遊が可能

観光案内所機能の強化

① デジタルサイネージの整備による観光スポット・市内店舗・緊急情報の案内

観光案内所へデジタルサイネージを導入し、観光案内に加えて、多様な情報発信を行う。

<期待される効果>

- ・観光案内所での災害情報発信機能の整備
- ・市内の飲食店や施設のマップ表示と、リアルタイムでの混雑状況の可視化



② 観光案内の機械化によるストレスフリーの周遊

- ・多言語対応のチャットボット導入による効率的な情報収集
- ・市内飲食店の案内と送客



<期待される効果>

- ・案内所職員が対面対応に注力することで、高付加価値のサービスを提供可能
- ・訪問客増加による市内消費の拡大
- ・観光客に関するデータ蓄積・行動把握

クラウドサービスのAPI連携により、混雑状況のデータをデジタルサイネージやチャットボットと共有

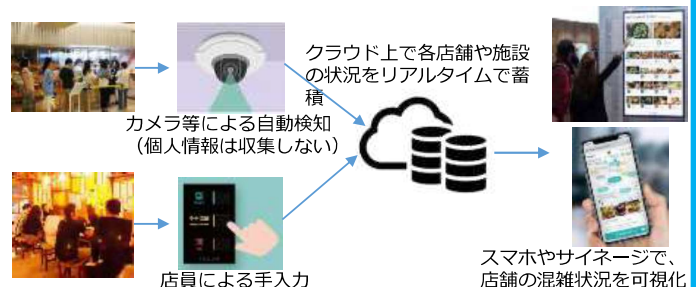
3密の回避による安心・安全なおもてなし

③ 混雑状況の見える化による3密の回避

- ・センサーやカメラで検知した混雑情報・空席情報を、サイネージやスマホ上でいつでも確認可能
- ・地図上に店舗をマッピングし、混雑状況や3密対策の状況を発信可能

<期待される効果>

- ・飲食メニューやコロナ対応状況等、各店舗の情報発信が可能
- ・3密や混雑を避けた周遊が可能



| 項目 | 対象 | 内容 |
|-----------------|----------------|---|
| 非接触型観光案内整備・運用業務 | 観光客 | 自動観光案内システム、施設の混雑状況可視化等により、3密を避けた行動を促し、非接触型観光を推進する。 |
| 観光案内所の感染予防対策 | 観光客 案内所スタッフ | 観光案内所にサーマルカメラ、飛散防止パーテーションを設置し、換気機能強化のため冷暖房設備を更新する。 |
| 観光トイレの感染症予防対策 | 観光客 | 市内の観光トイレの便座をフタ付温水洗浄便座に交換し、手洗いを自動水洗式に変更する。 |
| 観光施設消毒事業補助金 | 宿泊施設 | 新型コロナウイルス感染症患者が発生した宿泊施設の消毒、除菌作業委託費用を補助する。 |
| コロナ対策観光振興補助金 | 民間事業者等 | 奈良県新型コロナウイルス感染症対策観光振興補助金について、奈良県が交付決定した市内事業者に対し、奈良県が認定した補助対象経費の3分の1を市が上乗せで補助。 |

| 項目 | 対象 | 内容 |
|----------------------------|-------------------------|---|
| 修学旅行生等の待機用客室確保 | 市内に宿泊する修学旅行生等 | 修学旅行生等がPCR検査待ち等の際に、待機場所を自らで確保できない場合に備え、宿泊施設の客室を確保する。 |
| 修学旅行支援金 | 市内に宿泊する修学旅行生等 | PCR検査で陽性と判明した修学旅行生およびその保護者の移動に係る交通費等を補助する。 |
| 修学旅行生等宿泊者専用新型コロナ24時間相談ダイヤル | 奈良県外から市内宿泊施設に宿泊する修学旅行生等 | 修学旅行生など奈良県外から奈良市内の宿泊施設に宿泊する方専用の新型コロナウイルス相談窓口の設置。 |
| 修学旅行「奈良旅行」支援事業 | 市内宿泊施設に宿泊し、体験等する修学旅行生 | 修学旅行生のために学校が行う感染予防対策（バスの増便や客室数の追加、マスク・消毒液等の購入）や行程の充実に係る経費を支援。 |

4. 今後の観光施策

マイクロツーリズムの推進

奈良市 田原本町 吉野町 明日香村の4市町村による取り組み

令和2年9月12日(土)連携会議開催

開催場所：ANDO HOTEL 奈良若草山



【これまでの連携】

- ① 人事交流（奈良市・明日香村）
- ② 食に関する観光連携（奈良市・明日香村・田原本町）
→食を中心とする地域の魅力を海外へPRする
- ③ フランスに関する観光連携（奈良市・吉野町）
→ジャポニスム事業のきっかけとして増える訪日客へ両市町をPR



マイクロツーリズムの推進に向けて連携強化！



【今後の展開】

コロナ禍を発想の転換期ととらえ、各自治体が持つ資産を、点から面へと変えていく！



今まで以上に、通過型観光から滞在型観光へシフトし、奈良全体で長期間滞在が可能なツアーを造成し、奈良の価値を高めていく！



＜具体例＞

- 世界遺産と魅力ある自治体ツアー観光のルートづくりを実践していく！
- キラーコンテンツを各地で作ってPRする！



今後、奈良市がハブとなり、地域全体のポテンシャルを高めていく！



**コロナに負けるな！
ピンチをチャンスに！**

長崎市

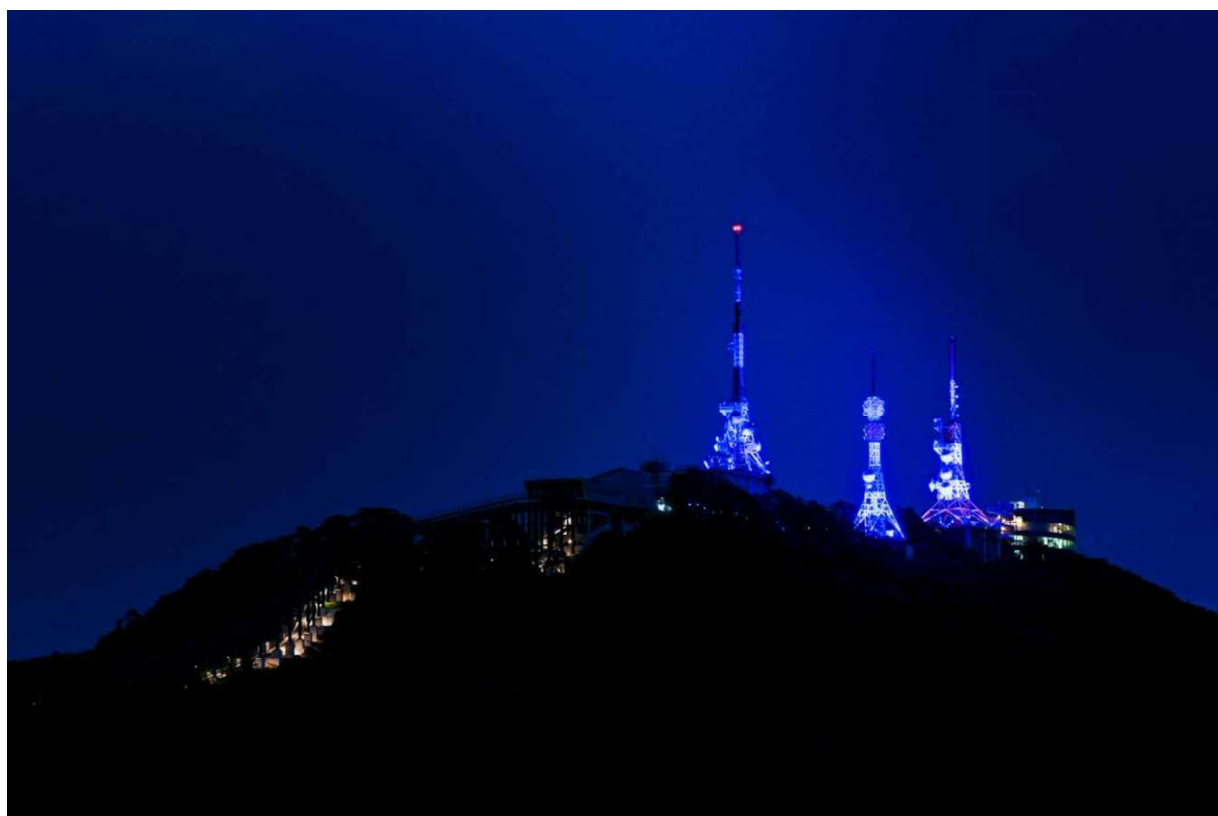
ピンチ **その1**

**クルーズ船で
クラスター発生！**

コスタ・アトランチカ号



稲佐山ライトアップによる応援



コスタ・アトランチカ号 出港



コスタ・アトランチカ号 出港



ピンチ その2

観光客が激減！

観光客が激減！

観光施設入場者数

(2～8月比較)

令和元年 **196万人**



令和2年 **50万人**

74.5% 減

宿泊施設の稼働率

(2～7月比較)

令和元年 **67.1%**



令和2年 **31.6%**

35.5% 減

修学旅行のキャンセル数

(令和2年4～9月)

**約700校 8万人
キャンセル**

感染拡大前



感染拡大後



team NAGASAKI SAFETY

ポイント1
産・官・学チームでの取り組み

ポイント2
長崎大学監修のガイドライン

ポイント3
ガイドライン遵守の現地審査

長崎大学
監修

新型コロナウイルス 予防対策の為のガイドライン

10の大項目、58の項目で構成されています。
[詳細は別途資料を配布いたします]

この施設は衛生管理を
徹底しています。



客室の衛生管理、
清掃を徹底しています。



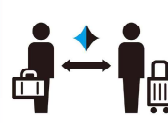
従業員は毎日検温し、
体調不良者の
確認をしています。



安心してお食事を
楽しんでいただけます。



すべてのお客様に
セーフティな行動を
呼びかけます。



ホテルに出入りする
業者の健康チェック
を実施しています。



バックヤードも
衛生活動を
徹底しています。



トイレは感染拡大防止
のルールに基づいて
清掃しています。



緊急時の対策が
用意できています。



最新情報の把握と、
すみやかな情報発信
を行います。



安心・安全な
ご宿泊のために。



▲ 認証ステッカー

尾曲がり猫ステッカー

【配布対象者】 長崎市内の新しい生活様式に取り組む団体等

【認定ステッカー作成枚数】 20,000枚（1店舗あたり2枚配布）

| 配布先 | 配布枚数 | |
|----------------------------|------------------|--------|
| 団体からの申請数 | 37団体 | 3,388枚 |
| プレミアム商品券使用店舗 | 2,394事業者 | 5,254枚 |
| 長崎県新しい生活様式対応支援補助金 対象事業者 | 272事業者 | 544枚 |
| 計 | 37団体 2,666事業者 | 9,186枚 |



※9/3時点

大切なあの人へ、想いを伝える「長崎からの手紙」

ポイント①
市民全員が参加者

ポイント②
気持ちを手書きで伝える



ピンチ **その3**

M I C E が開けない!

M I C E 施設 出島メッセ長崎



D M O … 学会の W E B 開催

第13回
日本在宅薬学会学術大会
薬剤師進化で加速する「在宅薬学」：地域包括ケアの最前線
2020年9月13日(日)～27日(日) WEB開催

事前参加
申し込み特典！
長崎お菓子
詰め合わせ
プレゼント！
運営委員
推薦！
九十九島せんべい
一口香 よりより

事前登録者1,000人



地元事業者の受注に
つなげる工夫

D M O …学会のW E B 開催での取組み



長崎蒲鉾有限公司
かまぼこ長崎一番詰合せ

かまぼこ長崎一番自慢の「板付け蒲鉾」、「すぼ巻」、「焼き竹輪」、「揚げ天」などバラエティー豊かな商品を含めました。



長崎蒲鉾有限公司
長崎一蘭八トシロール詰合せ

長崎県魚の鰯を主原料としたすり身（ブレン・チーズ）と、白身魚を主原料としたすり身（えび）を食パンで挟み、ロール状にして油で揚げました。



長崎蒲鉾有限公司
桃蒲鉾詰合せ

桃源郷という言葉があるように桃は理想郷、おめでたいもの、お祝いの象徴です。1つ1つ職人が心を込めて造りあげます。



雲龍亭
一口餃子

長崎で飲み会のメといえはここ！メでも一口なのでどんどん入る！



岩崎本舗
ながさき角煮まんじゅう

説明不要の長崎駅にもある有名品。小腹すいた時にぴったり！



焼製工房 薫助
とらふくの焼製、チーズの焼製

長崎戸石で養殖されたフグの焼製やチーズの焼製をおつまみに！